

令和4年度
つくば市生活支援体制整備事業
第2層生活支援コーディネーター
活動報告書



目次

第1章 つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革	1
第2章 第2層生活支援コーディネーター(SC)の取り組み	5
第3章 地域で行われている取り組みと SC の関わり	9
【大穂圏域】大曾根みんなの食堂	11
【豊里圏域】豊里圏域版社会資源集の発行	13
【谷田部西圏域】みどりのバオバブNET	15
【谷田部東圏域】春日の森NET	17
【桜圏域】春風台サロン	19
【筑波圏域】小田地区いきいき会議	21
【茎崎圏域】梅が丘ごみ出し支援活動	23
その他地域で行われている取り組み	25
第4章 第2層協議体(地域支えあい会議)の開催	
大穂圏域地域支えあい会議	30
豊里圏域地域支えあい会議	31
谷田部西圏域地域支えあい会議	32
谷田部東圏域地域支えあい会議	33
桜圏域地域支えあい会議	34
筑波圏域地域支えあい会議	35
茎崎圏域地域支えあい会議	36
地域支えあい会議(第2層協議体)の課題と今後の方向性	37
第5章 今年度の成果と今後に向けた課題	
今年度の成果について	39
今年度 SC の地域活動の中から把握された課題の整理	40
来年度に向けて	43
おわりに	44

1 つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革

(1)つくば市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革(令和2年度～)

つくば市においては、平成29年度より生活支援体制整備事業が開始され、令和2年1月より、第2層圏域をつくば市社会福祉協議会が事業を受託し、事業への取り組みを開始した。第2層圏域(日常生活圏域)を大穂・豊里・谷田部西・谷田部東・桜・筑波・荃崎の7つの圏域に分け、それぞれ協議体を設置し事業を推進している。

【事業の目的と概要】

この事業は、「高齢者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備、その他のこれらを促進すること(介護保険法第115条の45第2項第5号)」とされているが、地域に向けて説明する際には、よりわかりやすく、身近に感じてもらえるよう、「年をとっても、誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう、『支えあいの地域づくり』を行う」としている。

また、推進したい取り組みの具体例として、「通いの場」「話し合いの場(協議体)」「見守り・声かけ」「生活支援活動」の4つを例示し、これらの活動を新たに創出したり、既にある活動が広がったりすることで、地域の中での支えあいを進めていくことを目的としている。

具体的にはこんな活動が 地域に広がることを目指します

通いの場

地域の皆さんが気軽に集まり、体操や趣味活動、お茶飲み会などで楽しむ居場所をつくれます。



話し合いの場(協議体)

助け合いや支え合いの仕組みづくりについて、地域住民や関係機関等と一緒に話し合う場をつくれます。



見守り・声かけ

地域でさりげない見守り・声かけ活動が広がることにより、信頼関係が生まれ、困りごとに気づくことができます。



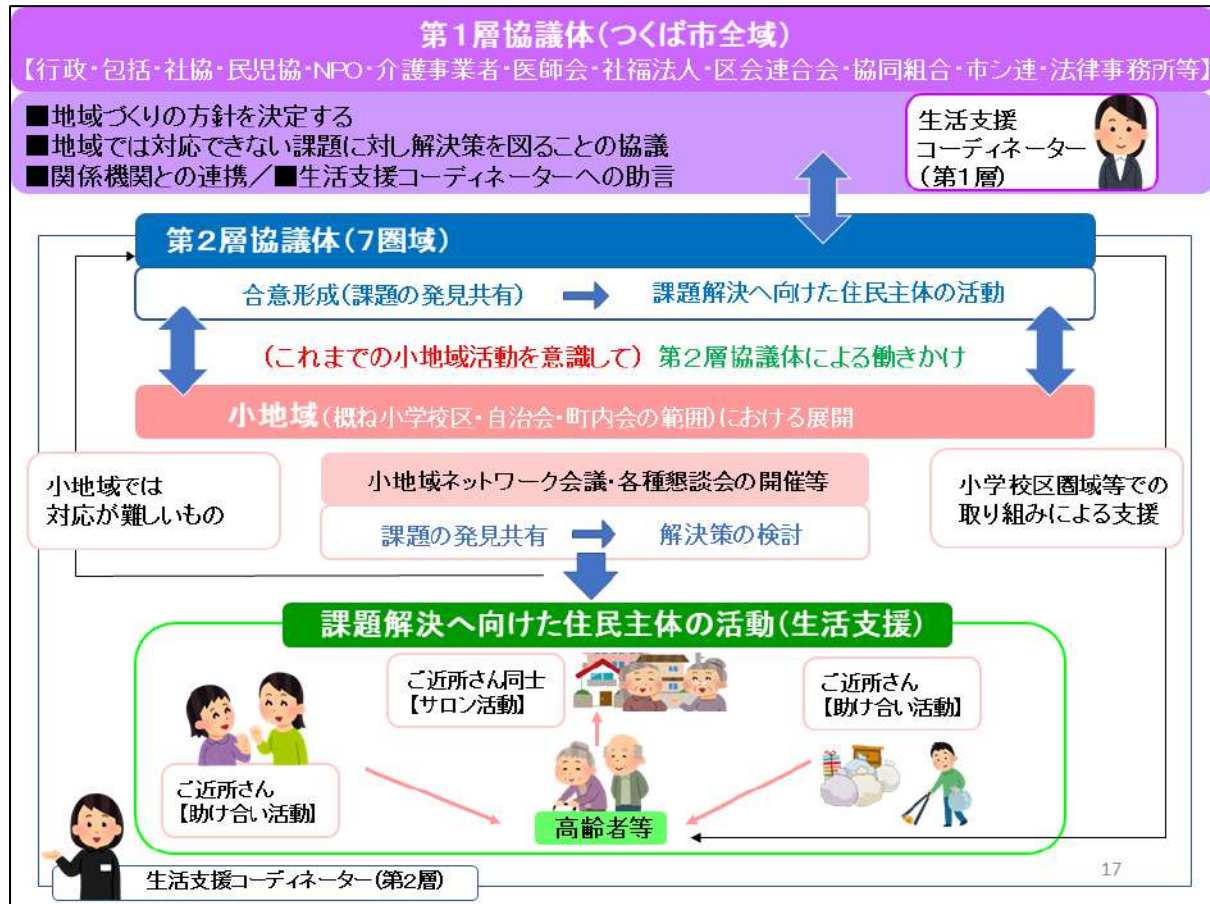
生活支援活動

ごみ出し、電球交換、庭木の水やりなど…ちょっとした困りごとをご近所同士で解決できる仕組みをつくれます。



【事業の実施体制】

つくば市では、本事業を進めていくための体制として、以下の考え方をういている。



まず【第1層協議体】とされるのが、【市全域】の支え合いについて、話し合いを行い、方向性を検討する場である。また、第2層の各圏域や、地域から上がってきた課題についての協議も行う。

次に【第2層協議体】とされるのが、【日常生活圏域】をベースに区域を分け、7圏域にそれぞれの圏域の支え合いについて考える場である圏域内の課題について話し合い、それを解決するための方策を考えたり、地域の中で行われている取り組みの事例を共有し、地域を超えて支えあいの取り組みが広がっていくことを目指す。この中で課題解決が難しい場合は第1層に問題提起し、解決に向けて話し合えるような体制を取っている。つくば市の第2層(7圏域)は合併前の旧町村単位をベースとしているため、圏域によって地域性は様々である。その地域に合った形で支えあいの取り組みが進むよう、協議体も圏域によってやり方を変えている。

そして【小地域】とされているのは、小学校区単位、区会単位等の、より住民にとって身近な範囲であり、明確な位置づけはされていないが、【第3層】的なイメージとなり、住民が主体となって地域活動が行われている範囲であり、コーディネーターはそれらの活動の側面支援・後方支援を行っている。

【生活支援コーディネーター】

別名「地域支えあい推進員」とし、「地域の皆さんと一緒に支え合いを推進する、地域づくりの専門職」としている。第2層協議体においては、令和2年1月に、大穂圏域、豊里圏域、筑波圏域、荃崎圏域、同年4月には、谷田部西圏域、谷田部東圏域、桜圏域に第2層生活支援コーディネーターが配置されている。

その役割として、「**見つける・発掘する**」「**つなぐ**」「**つくる**」「**発信する**」を主なものとし、担当する圏域の地域性に合わせた地域づくりの支援を展開している。

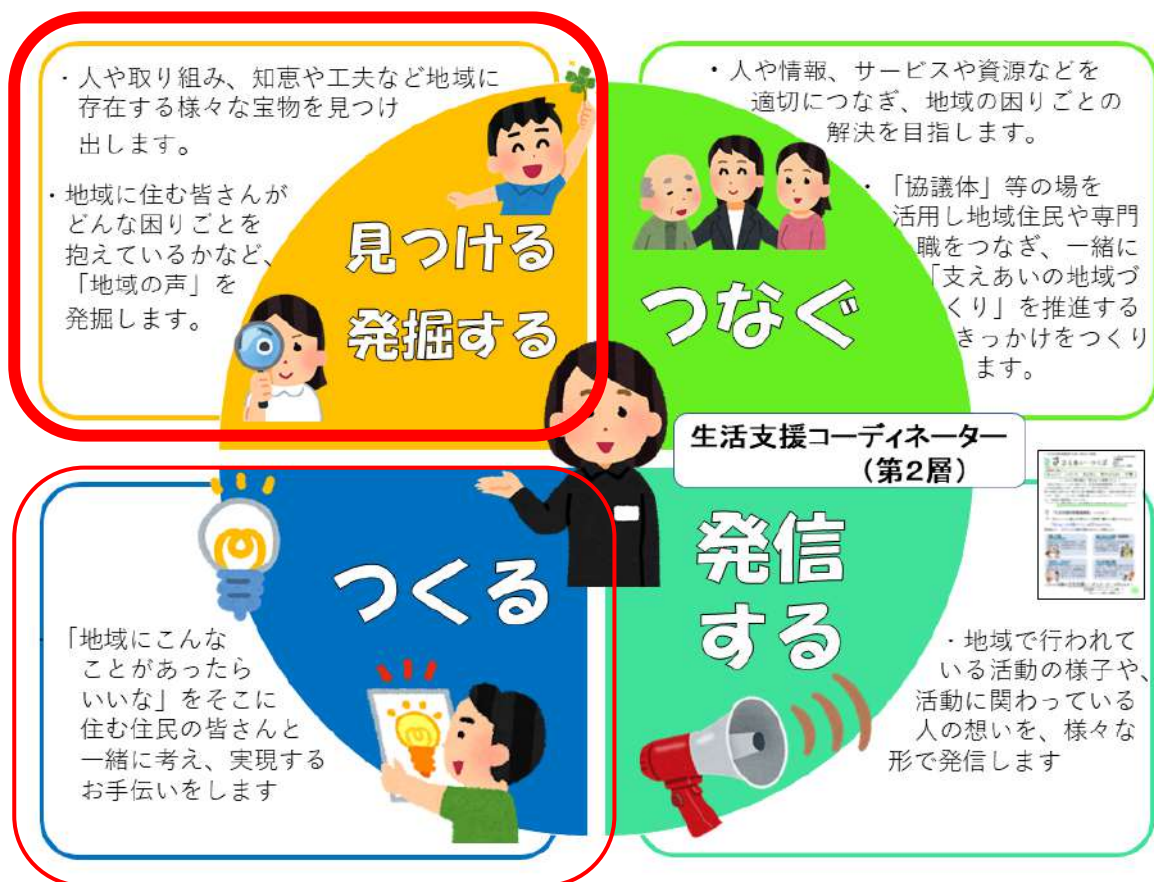


【令和4年度第2層協議体生活支援コーディネーター】

圏域	氏名	圏域	氏名
大穂	小倉 貴之	豊里	倉持 弘
谷田部西	大竹 佳代子	谷田部東	荻生 奈苗
桜	小川 奈々世	筑波	猪瀬 翔南
荃崎	益子 奈津子		

令和4年度においても、圏域ごとに地域支えあい会議を開催し、地域活動の情報共有を図り、必要な資源や地域課題に応じた助け合い活動の検討を行った。また、コーディネーターが支援し、小地域活動の取り組みを進めている。

【R4 年度の目標】



令和4年度は、生活支援コーディネーターの4つの機能のうち、**【見つける・発掘する】機能を重点的に強化**するとともに、そこで把握された地域課題や住民の声をもとに、**【つくる】機能を強化**することを目標と設定した。

【見つける・発掘する】機能の重点強化

- ・地域支えあい会議(第2層協議体)、地域見守りネットワーク、その他小地域での会議・打ち合わせを開催し、地域課題の把握に努める。
- ・生活支援コーディネーターのアプローチ活動・地域住民との協働の中で、「地域の声」を聞き、住民自身が考える地域課題の把握を行う。
- ・上記の活動から把握された地域の課題、住民の声を把握・整理し(1層にあげる)。

【つくる】機能

- ・先述の活動を通して把握された地域の課題、住民の声を元に、その地域に合った支えあい活動を2層圏域の範囲において創出する。

第2章 第2層生活支援コーディネーター(SC)の取り組み

(1) 1・2層コーディネーター情報交換会

第1層コーディネーター（市）と第2層コーディネーター（社協）との連携を図るため、毎月情報交換会を実施。

各圏域コーディネーターの取り組み状況の報告、新たな取り組みの対する方向性の確認、地域課題の解決に向けた情報共有等を行うことで、1層・2層コーディネーター活動における協力体制構築に繋がった。

【実施回数】全15回

(2) 2層コーディネーターミーティング

第2層コーディネーターが集まり、月2回ミーティングを行い、各圏域の取り組みにおける状況についての報告や進捗状況等について意見交換や情報共有を実施した。

情報共有を行い他圏域の活動を知ること、自分の圏域の活動のヒントを得たり、意見交換でアドバイスをもらうことで地域課題の解決に繋がる等、それぞれの活動を推し進めることに繋がった。

【実施回数】全24回

(3) つくちゃん地域支えあい応援助成金 《つくば市社協新規事業》

住民主体の支えあい活動を推進するため、地域が活用しやすい新たな助成金制度を創設した。申請の際は、SCが申請のサポート等で関わり、その後の活動支援も継続して行っている。

【助成の内容及び令和4年度助成決定団体】

①地域支えあい活動立ち上げ事業

新たに支えあい活動を立ち上げる際に、年間5万円の助成／1回限り申請可

②地域支えあい活動運営事業

継続して行われている活動に対して、年間3万円の助成／3回までの申請可

③ミニふれあいサロン助成金

お試しで行うサロンに対する助成金。1回あたり3000円、年間9000円が上限

	種別	圏域	団体名	活動内容
1	運営	谷東	つくば de プレイパークひろめ隊	子どもと地域の居場所づくり
2	立上	谷東	けんがく活動団体協議会	地域で活動している団体同士の交流会の開催
3	立上	谷東	春日の森 NET	古民家を活用した地域交流事業

4	ミニ	谷東	つながる@研究学園	ミニサロンの開催(研究学園地区)
5	立上	桜	竹園ぷらっと	交流センターを活用した地域の居場所づくり
6	ミニ	谷西	コスモス会	ミニサロンの開催(島名地区)
7	立上	谷西	みどりのバオバブ NET	地域交流授業(居場所作り、交流イベントの開催)
8	立上	谷西	富士見ヶ丘つながり NET	地域交流事業(多世代交流事業、食を通じての交流事業)
9	ミニ	谷東	くすのき会	ミニサロンの開催(松代地区)
10	立上	谷西	本鎌むつみ会	地域交流事業(見守り活動の強化、食を通じての交流事業)
11	ミニ	筑波	ふれあいサロン水守	ミニサロンの開催(水守地区)

(4) 広報活動

【事業紹介リーフレットの作成】

本事業の目的や内容を地域住民に周知し、理解を深めていただくため、各種広報活動を行った。

今年度も生活支援体制整備事業の周知を目的としたリーフレットの作成を行った。誰でも分かりやすく事業を理解し、SC の活動を知ってもらえるように掲載内容を決め、デザインを考えた。1500部作成し、各 SC が会議や打ち合わせで配付し、地域交流センターの窓口等に設置した。



(本報告書最終ページに全体を掲載)

【第2層生活支援コーディネーターInstagramの開設】

令和4年7月にSCの活動や事業の案内等をPRするためのInstagramを開設。事業の概要や、日頃のSCの活動の様子、地域活動の紹介などを行った。

アカウント：@tsukuba_2sc

フォロワー：222

投稿数：37（令和5年3月末現在）



【生活支援体制整備事業広報紙「ささえあい・つくば」の発行】

つくば市社協で年4回発行している「社協通信つくば」内に、本事業の取り組みを周知することを目的としたページ「ささえあい・つくば」を作成・発行した。なお巻末のページは圏域ごとに独自に記事を作成し、住民が自分の住んでいる圏域の情報が届くようにした。

【発行回数】7圏域×4回



【茨城県社会福祉協議会 生活支援コーディネーター紹介動画制作への協力】

茨城県社協が作成している、「生活支援コーディネーター紹介動画」の作成に協力した。SCそれぞれの想いや、実際に地域で取り組んでいる活動について取り上げていただき、本事業やSCの活動について周知するツールとして活用していく予定である。



(5) 地域福祉アドバイザーの関わり

令和4年度より、つくば市社会福祉協議会として和秀俊准教授(田園調布学園大学准教授兼地域交流センター長)に「地域福祉アドバイザー」を依頼。社協の地域福祉事業全般にわたる指導・助言を頂いており、本事業においても、SC の地域活動や各種会議等への同行・活動支援、会議のファシリテーション・運営スキルなどの指導を頂いている。

アドバイザーには月1回のペースでご訪問頂き、訪問時は時間を2部に分け、前半は地域訪問として各圏域 SC の地域活動に同行してもらい、SC の活動や地域の取り組みについてアドバイスを頂いた。後半部分は社協中央支所に戻り、「ワーク」の時間として、SC 全員で前半の地域訪問部分の振り返りと、各事業についての課題の検討や、SC が地域活動の中で活用できるグループワーク等の手法を学ぶ時間とした。

また訪問前にはアドバイザーが訪問する地域の概要、SC が感じる成果や課題をまとめた「地域情報シート」、また訪問後には、アドバイザーから頂いたアドバイスを踏まえ今後の取り組みの方向性をまとめた「地域訪問報告シート」を各 SC が作成し、zoom を用いて事前の打ち合わせ・事後の振り返りを行っている。

各圏域の地域状況・地域性も異なり、各 SC の経験年数も異なるため、SC は自分の活動がこれで良いのか、迷いや孤立感を感じやすい。その中で、専門的な立場から客観的なアドバイスをもらえることで、今後の活動に活かす数多くのヒントを得ることができた。また、自分の地域の活動についてアドバイザーと共に SC 全員で考える場を持つことができ、仲間との連携の中で SC としてのスキルアップを図ることができた。



←SC の地域活動への同行の様子
(県社協作成:SC 紹介動画より)

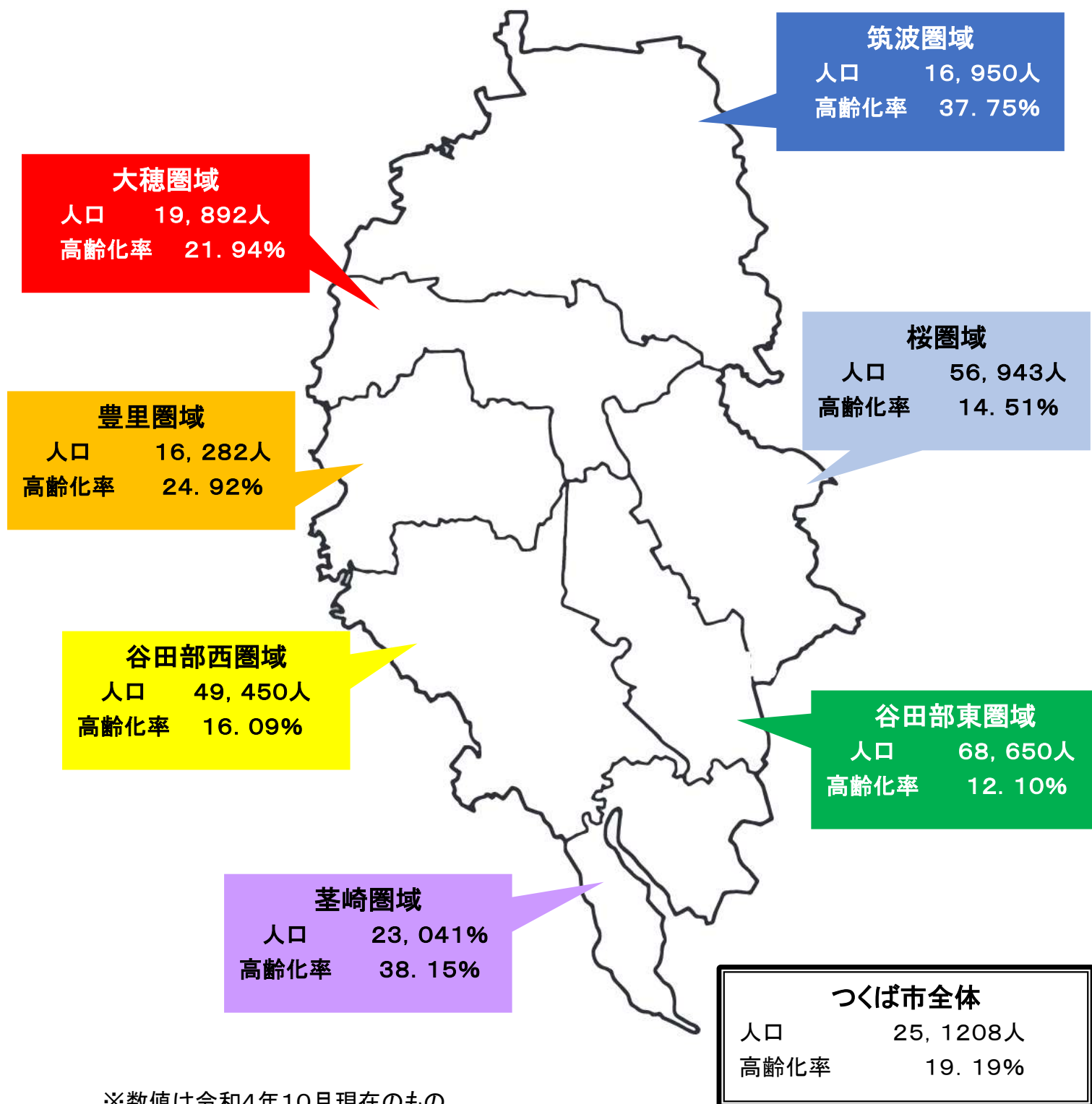
地域訪問後の「ワーク」の時間の様子 →
(県社協作成:SC 紹介動画より)



3 地域で行われている取り組みと SC の関わり

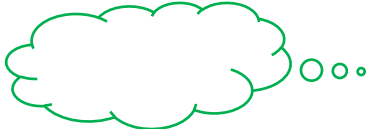
本項では、地域の中で住民が主体となっていて行われている取り組みと、その活動への SC の関わりについて記述する。

前述した通り、7圏域に1人ずつ SC が配置され、その地域のニーズや特性に合わせた活動の立ち上げや運営支援を行っている。



次頁からは、SC が地域の中で立ち上げや運営支援を行った活動を各圏域1つずつ、取り組みや支援のプロセスを「図式化」し、SC が行った支援やその中で生まれた成果、地域の変化等を明らかにした。

図式に用いられている図形についての説明は以下のとおりである。

SC の想い、考え	
活動の中での SC の気づき (他の活動でも活かせる視点)	
活動が始まるきっかけになった地域 の声、ニーズ	
地域住民の声	
活動を進める中で行われたこと	
活動が大きく進むきっかけになった できごと(ターニングポイントとなっ たこと)	
活動の成果	
SC が行った支援	
その他補足説明	

通いの場 (大穂圏域)

大曽根みんなの食堂

取り組みの背景

令和4年2月から動いていた大曽根みんなの食堂が、4月から開催することができた。

蓮沼地区でのふれあいサロンへの訪問時、サロン代表の方から、地域で新たに子ども食堂を始めたいと相談があったことがきっかけで始まった取り組みであり、地域住民の新たな居場所やこどもたちの食育を目指すために、毎月開催している。

内容・プロセス

「開催に向けた話し合い」

・令和4年4月からの開催を目指し、活動内容について話し合いを重ね、名称、開催日時、会場、金額、定員などの素案を作成した。素案をもとに話し合いを重ねていき、チラシと会則を作成した。さわやか福祉財団助成金申請書の作成も行った。

「全体ミーティングの開催」

・代表が声をかけることで集まった調理ボランティアと共に、全体ミーティングを開催し、役員やメニューの決定、今後の方針も共有した。

代表が自らチラシを小学校へ配布していくことで、地域住民の理解や情報周知を行った。

「お試し開催として、食事交流会の実施」

・4月からの本格的な開催に向けて、まずはお試し開催として、3月に子どもたちを対象に食事交流会を開催した。食事交流会に参加した子どもたちの笑顔を見ることで、改めて大曽根みんなの食堂開催への意欲が高まった。

「令和4年4月大曽根みんなの食堂の開催」

・助成金も4月に無事に決定したことから、開催への準備が整った。

・令和4年4月に食堂の初回が開催され、以降毎月第3土曜日に定期的で開催されている。

「開催後の定期的なミーティング等の支援」

・開催中だと分かるのぼり旗の制作、下半期用チラシの制作の支援も行った。

・会議などで会議参加者に向けて食堂の紹介を行うことで、情報提供や食材寄付のお願いなどを周知していった。

・次年度以降の継続した運営のためにも、助成金の関係課と情報共有をしながら対応していきたい。



結果、効果等

ご家族での利用が多く見られ、リピーターとなっている方もいる。子どもたちも笑顔で食べてくれており、家ではなかなか食べない野菜を、ここでは食べてくれる等好評な声を多数いただいているなど、地域の新しい居場所となった。高齢者の利用も見られ、子どもの食育のみならず、地域住民の交流が行える食堂として、今後も定期的に地域住民が集える場とし開催していきたい。

地域でこども食堂を始めてみたい。地域で食育を推進したい！



地域のふれあいサロンへ訪問

ふれあいサロン代表

地域の新たな居場所となるのでは！とてもよい話し！

どう始めたらいいかわからなかったけど、一緒に進められるのならぜひやってみたい！

こども食堂開催意思の確認

食堂の立ち上げの協力をさせてほしい

Point
「やりたい」という想いをSCがサポートすることによって、意欲が高まっていく

開催に向けた作戦会議①
食堂の開催内容の素案を作成

内容決定の支援

具体的な内容が決定

4月まで期限が少ない、迅速な対応が必要

開催に向けた作戦会議②
内容の詳細決定・チラシの作成・助成金の申請手続き

資金の不安

助成金の情報提供

助成金申請やチラシ等の書類作成支援

★代表が行ったこと★
・メニューの決定
・調理ボランティアの募集
・チラシを小学校へ配布
・・・など

全体ミーティング
会計職の決定、ボランティアとの情報共有

Point
事務作業はSC、地域との調整は代表が行う等役割を分担

ボランティアのモチベーションアップ

お試しでこどもたちへ向けた食事会の開催

Point
実際に活動してみることが大切

チラシの完成！

社協や交流センターに設置

会議などでも周知

こどもたちも笑顔で食べてくれた

令和4年4月 大曽根みんなの食堂開催

毎月第3土曜日に食堂開催

地域に新たな居場所ができた

ご家族での利用が多く見られた。リピーターになってくれた方もいた。

定期的なミーティングなど活動中の支援

下半期分のチラシ作成

のぼり旗作成

助成金にも限りがある。食材の寄付がないかな・・・

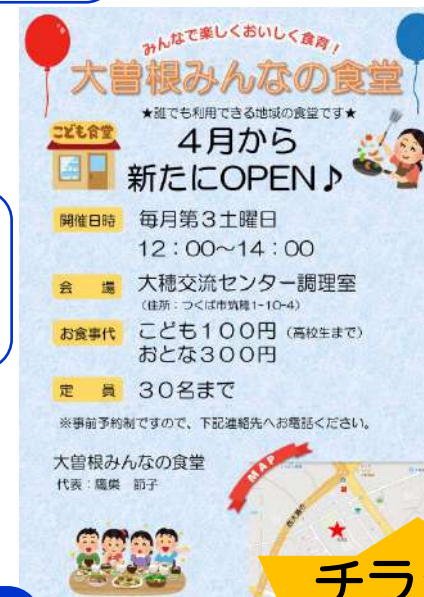
会議へ出席依頼
食堂についての情報提供
食料の寄付のお願いの周知

開催中がわかるのぼり旗があるといいな

令和5年度に向けて

来年度の助成金の申請のために、関係課との情報共有・情報提供

これからも継続して地域の居場所として活動していってほしい



令和4年大曽根みんなの食堂メニュー表 (4月～9月)	
開催日	メニュー
4月16日	とうもろこしご飯 豆蔵ハンバーグ 立派なたまご フルーツかん
5月21日	たけのこご飯 春巻き フルーツ 香に
6月18日	ご飯 鶏のから揚げ じゃがいも のがレット マッシュポテト入りヨーグルト
7月16日	冷やし中華 白玉だんご
8月20日	野菜カレー 生野菜 サラダ
9月17日	三色ご飯 魚のムニエル スープ



野菜が甘くておいしい！



通いの場 (豊里圏域)

豊里圏域版社会資源集の発行

取り組みの背景

- ・いくつになっても誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていたためには、人との交流の機会や自分自身の健康維持活動、地域での助け合い活動が必要となる中で、圏域内において様々な活動を地域の社会資源として位置づけて情報を発信していく。
- ・情報発信するための手段として、圏域内で活動している各種団体組織に協力を依頼して一つの冊子にまとめ上げて社会資源集として発行をする。

内容・プロセス

- ・主体的に活動している方をコアメンバー(7名)として協力依頼して会議を行った。コアメンバーを中心に今後の具体的な活動方針を決めていくこととした。まずは地域情報を知ってもらうことから進めていくこととなった。
- ・コアメンバー会議において情報を得るための社会資源カードを作成した。それをもとに区会やシルバークラブ等の各種団体組織に情報提供を依頼した。
- ・コアメンバー会議を全5回開催した。その会議の合間に第2層協議体会議(地域支えあい会議)を2回開催して内容確認等の意思疎通を図った。
- ・多くの情報を提供されてことにより、データ入力も膨大となったが冊子を発行することが出来た。

結果、効果等

- ・社会資源集の情報により、地域住民の自主的な活動につながることや、すでに活動されている団体組織においては会員を増やす機会と地域活動の活性化されることが予想される。
- ・区会区長への冊子の配布と班回覧して冊子の周知をするための簡易チラシを作製した。
- ・結果として地域住民の健康や生きがいづくりにつながることを目的とするところである。

～R3 年度

地域の情報が
わからない！

地域を活性化
したい！

コアメンバーの依頼

具体的な地域課題を
見いだせる方を
メンバーにする

Point

生活支援体制整備事業
第2層協議体会議の開催

よしっ!! まずは
地域の課題解決に
向けた具体的な
話し合いをしよう

2022 年 8 月

第1回コアメンバー会議

意見のまとめ：
あらためて地域を知るためにも
地域情報誌が必要だね

わかりやすい
地域情報誌を
作りたい！

第1回豊里圏域地域支えあい会議

豊里地区内の
地域情報誌を作る
ことに決定！

2022 年 9 月

第2回コアメンバー会議

社会資源となる
団体組織を調整して
リスト化

各団体組織に
データカードへの
記入依頼

社会資源
データカードの
回収

やはり・・・
事務作業に
追われそうだな

2022 年 12 月

第3回・第4回コアメンバー会議

コアメンバーで資源情報の集約や校正作業

たくさんの
情報が寄せられた



第2回地域支えあい会議

2022 年 1 月

第2回豊里圏域地域支えあい会議

地域みなさんと掲載内容の確認！

Point

この資源集に
併せて
周知用チラシも
作成した

2022 年 2 月

第5回コアメンバー会議

コアメンバーで最終確認！

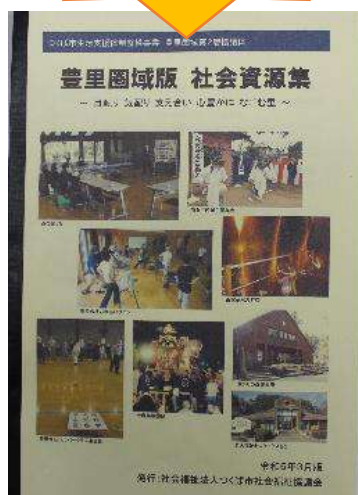
最終段階まで
キター！

今後は
新たな掲載依頼が
あることに期待！

豊里圏域版
社会資源集の完成

Point

これからは、この冊子をどう活用するかが大事！



みどりのバオバブ NET ～地域のつながりづくり～

取り組みの背景

TX 沿線が開発されて数十年が経過した中、地域には高齢者が増加している。また、造成が進み住宅地は増えているが、公共の施設や住民が気軽に集まれるコミュニティセンターがないことについて、地域見守りネットワーク会議において、参加者から声が上がった。それと同時に、コーディネーターにも住民から「高齢者が気軽に参加できるカフェやサロンがないか」などの相談があった。そんな中、住民から「地域で気軽に体操やおしゃべりができるサロンを開設したい」との話があり、「つながりづくり」「みんなの居場所」をテーマに活動が始まった。

内容・プロセス

①活動場所

・みどりの地域には、公共施設や住民が気軽に集まるコミュニティセンターがないため、まず開催場所の検討から始めた。駅前付近やマンション付近や近隣区会の自治会館など場所はあるものの条件が合わず苦戦した。「サロンを開設したい」と「サロンに参加したい」と思いを考えながら会議を重ね、結果的にはまず「マンション内で試験的にやってみることになった」。

②運営資金確保支援

・活動資金を確保するために、つくちゃん地域支えあい活動助成金の申請案内を行い申請支援を行う。申請も決定し、活動がスタートした。

③活動運営の担い手確保

・まずは、サロンのコンセプトを考えた。「つながりづくり」「みんなの居場所」となった。そして担い手募集が始まったが、活動に興味を持ってくれる方はいても運営までは・・の声が聞こえてきた。

その声を聞きマンション周辺や区長を通しての活動の案内チラシを作成し配付・掲示。

・他地区(高須賀集いの場)に代表者が参加し、スキルを高め、筑波大学生と情報交換を行い、参加者呼びかけのチラシやサロンへの参加をお願いし協力してくれることになった。

・社協通信「つくば」に活動記事を掲載し活動の PR を行ったところ、担い手を見つけることができた。

④ふれあいサロン「バオバブ」スタート

・和やか雰囲気でのスタート。月 1 回のサロン開始

⑤サロン活動支援

・マンション共有部分で活動しているが、外部住民からマンション共有部での開催は、近隣住民に取って壁を感じる。いよいよ開催場所の変更又はサロン回数の増の検討。結果的にレストランを借用することができ開催することになった。「サロンやります。」よりまずイベント的に誰でも参加できるカフェのような感じで実施してみることを提案した。地域の方が「楽しめて、また参加したい。」との声が聞けるように内容の検討を行っている。

結果・効果等

・つながり NET の活動として、今年度は「みんなの居場所」である「ふれあいサロンバオバブ」を開設することができた。少しずつではあるが、地域にも周知が進んでおり「参加したい」「協力したい」の声。今後は、住民の声をきき、次のステップである「世代を超えたつながり」を作るために活動をしていく方向となった。コーディネーターとして地域住民の声をカタチにするため一緒に活動し支援していきたい。

2021 年 10 月

高齢者が増加している。でも開催できる場所がない

谷田部南小区

地域見守りネットワーク会議開催

何とかしないと・・・
サロン立ち上げ者いないか。



サロンやシルバークラブもない。住民が気軽に集まれるサロンがあるといいな。

サロン立ち上げの
きっかけができた

「みどりの」でサロンやってみたい人発見

担い手が
見つかり
ました。

サロン・・・やってもらえるか？確認と支援

まずは、資金と担い手を探そう
担い手は地域にいるかな。

若い世代も巻き込んでいけば多様な活動ができる。

運営資金確保

開催場所

新しい仲間
も加えて話
し合いの場
ができた。

担い手募集

つくちゃん地域支えあい
助成金申請作成サポート

どこで開催するかで参加者も変わる
との声。会場探しのため話し合いの
場を作りワイワイガヤガヤ。

社協通信「つくば」活動記
事掲載



資金・会場
仲間が決まった。

会場決定 😊

担い手がたくさん
集まればいいな！ワ
イワイ楽しくやりた

記事を見て、仲
間が見つかった。

サロン参加者募集

チラシ作成支援・チラシ配付支援

区長や民生委員・地域住民と連携し、チラシ
を配付し参加を呼びかけた。区長・民生委員
との連携は、活動の幅を広げることができる

新たな
地域の居場
所ができた

2022 年 7 月

ふれあいサロン「バオバブ」スタート

サロン開設までの調整や支援

サロンをもっと知ってもらうために、新
たな場所（レストラン）を借りて
3 月は、健康相談や測定やストレッチや体
操を実施予定。

楽しい！
また参加
したい

場所をかえてイベント開催

開催日時や内容等の調整

地域みんなが楽しめる場を一
緒につくりたい。

通いの場

(谷田部東圏域)

春日の森 NET(春日・東平塚地区) ～地域の空き家を活用した集いの場づくり～

取り組みの背景

・この地区では、サロン等の住民の小さな集まりはあるものの、それを行う場所がない状況があった。また地域で孤立している住民を心配する声が上がっていた。

地域見守りネットワーク会議の場において「地域の中で空き店舗を所有している住民から、『この場所を地域のために活用してほしい』との話を聞いている」との話題提供があり、この場所を地域の住民が気軽に集える場として整備していくことになった。



内容・プロセス

「春日の森 NET 作戦会議」の実施

取り組み名を「春日の森 NET」と名付け、仲間集めから始めた。集まったメンバーでまずは空き店舗をどう活用していけるか意見交換を行う場づくりを行っている。サロン関係者、地域活動関係者、地区内に居住する議員など、様々なメンバーが集まっている



集いの場の開催～「サロン春日の森」の開始

まずは「みんなが気軽に集まれるサロンを作ろう」ということになり、令和3年6月より、「サロン春日の森」として、月1回のサロンを開始。



空き家の整備プロジェクトの開始

この空き店舗に隣接する古民家も持ち主の方から活用してほしいとの話があったため、家屋内の片づけや裏庭の草刈りなどみんなで整備を進めている。

古民家を利用し地域イベントを開催(花火大会)

整備した裏庭を活用し、夏に地域イベントを開催。花火大会を開催し、カレーをふるまった。地域住民に対して初めてこの場所をお披露目する機会となり、「こんな場所があるなんて初めて知った!」との声も。子育て世代の参加も多くあった。



認知症声かけ訓練の開催

市地域包括支援課、谷田部東地域包括支援センターと協働し、地区内で認知症声かけ訓練を開催。事前に認知症サポーター養成講座も開催。当日は交流イベント(焼き芋)も併せて実施し、住民が楽しみながら福祉を学ぶ機会となった。



結果、効果等

- ・地域住民なら誰でも気軽に来られる場所としての周知と理解が少しずつ進んでいる。また取り組みを進める中で、地域の中に住む大学生や外国人、子育て世代との関わりもできてきており、世代を超えたつながりが生まれたり、一緒に活動を推進する仲間が増えてきている。
- ・また、認知症声かけ訓練等のイベントをきっかけに、専門職等もこの場所について知り、関わってもらえるきっかけができた。今後は福祉に関わらず、様々な分野の専門職に関わってもらえることで、活動の幅を広げていきたい。

地域の中に、集まれる
場所がない…

2020年9月

地域見守りネットワーク会議の開催

地域の中で孤立している
住民（高齢者・学生）
が心配



民生委員・区長

地域に良い感じの元店舗
・古民家があるよ！

多世代の住民がここに
集まったら、絶対楽しい！

話し合いをしながら
仲間を増やしていこう。

話し合いの場づくり
関心層への働きかけの依頼

2020年12月

話し合いの場の「作戦会議」の開始

話し合いの場の
創出

団体の立ち上げ

地域の中での声掛け
で徐々に仲間が増え
ていった！

Point

SCが1人で頑張ろうと
するより、地域の人と頑
張る方が、活動は進む！

やりやすい活動の提案
地域の意見を出しやすい工夫
活動を行うために必要な制度や
仕組みの説明

活動が始められてよかった！
でも始められるまで半年かった。

Point

地域の活動が形になるまでは
時間がかかる。それも想定し
て地域に働きかけていく必要
あり。

2021年6月

第1回「春日の森サロン」の開催

住民自身が、参加者・
協力者集めを行った

集いの場の
活動開始！

古民家の整備も開始



←筑波大生発案の
フリーマーケット

色々な人や関係者を巻き込み
ながら、進めていこう

関係諸機関への情報提供

様々な人との連携！仲間が増えてきた

同じ活動をしてい
る団体をつなぐ場・
きっかけづくり

Point

色々な人が関わることで
多様な活動が可能にな
る！SCとしてつなげる
工夫が大事。

連携の中で
多様な活動が
生まれた！

空き家を活用している団体の
ネットワークを作っても
面白そう！

←学生農家による
週1回の野菜販売

2022年7月

古民家の地域へのおひろめ（花火イベント）

企画・立案・運営も住民が
中心で！チラシ、SNS等
も活用しPRを行った

地域住民に
場所を知ってもら
うきっかけに！

実施に向けて話し合いの場の開催
一緒にイベント準備～実施。
一緒に楽しむ！

Point

SCだって一緒に
楽しんでいい！

資金集め開始！なかなか苦戦！

情報提供・申請のサポート

あきらめない
気持ちが大事

書くところ多い！
大変！

2022年11月

認知症声かけ訓練開催

認知症サポーター
養成講座を受講し
知識を深めた

焼き芋イベントを併催

住民が楽しみながら
参加できる工夫の提案

専門職・関係機関
との協働

地域と専門職の協働の
きっかけづくり、調整

専門職にも
地域の力を
知ってほしい！

専門職からも
「楽しかった！」
との声。

みんなが一緒になって
「楽しい！」と思える場
をつくれたのがよかった

通いの場 (桜圏域)

春風台サロン

取り組みの背景

春風台は新しく区画整理してできた地区で、若い世代も多いが、移住してきた高齢者もいる。住民が気軽に集まれるサロンがないため、高齢者の閉じこもりが懸念される。

令和2年に春風台の民生委員より、サロンを始めてみたいと話があった。しかし、交流センターや集会所がないため、活動できる場所がないことが課題としてあった。

内容・プロセス

①活動場所の発見

令和2年(2020年)サロンを行う場所を探すことから始めた。コロナ禍で、積極的に動くことができないまま、約2年が経過した頃、他圏域のSCから春風台にある「BBQ グリル専門店 BAR-KIN」がレンタルスペースを行っているとの情報提供があった。定期的な活動を行う場として借りることが可能か相談し、使わせていただけることになった。

②資金の確保・参加者募集

サロン開催の資金を確保するために、様々な助成金情報を調べ、申請手続きのサポートなどを行い、助成金をいただけることが決定した。

同時並行して、参加者募集のチラシを作成した。民生委員から区長に区会回覧の依頼と、春風台のふれあい相談員と連携して見守りしている方に声かけをしてもらった。結果、春風台に住んでいる高齢者等10名の方が参加することになった。

③他圏域のSCと筑波大生との打ち合わせに参加

令和4年(2022年)4月、他圏域のSCと筑波大生との打ち合わせの場に参加させてもらった。春風台サロンが始まることを話したところ、第1回目のサロンにアイスブレイクやゲーム等の企画を考えて参加してくれることになった。

④春風台サロンスタート

令和4年(2022年)5月10日(火)に第1回目を開催。モルックやウォーキング、健康体操などのメニューを取り入れながら、茶話会を行っている。筑波大生にもサポートしてもらい全10回行った。また、地域の若い世代との交流もしていきたいということで、近所の親子に声かけしクリスマス会も開催した。

⑤来年度について打ち合わせ

助成金が1年間しか出ないため、新たに助成金を申請すること、別の会場を探すことなどを打ち合わせした。その後、サロンの参加者から「空き家があるから使ってもいい」と言ってもらい、令和5年(2023年)4月から、空き家を借りて開催することになった。改めて会場を変更することを区会回覧で周知し、参加者を募集することになっている。

結果、効果等

始まってから約1年が経ち、参加者も定着し順調に行われている。筑波大生との繋がりができたことで、サロンの支援だけでなく、桜圏域全体としても活動が活発化していくきっかけになったと思う。これからは春風台の集いの場・通いの場としてより多くの住民に知ってもらえるようなPRもしていく。

バーキンの場所を見つけることができたことや筑波大生との繋がりができたのは、他圏域のSCからの情報だったので、SC間の情報共有の大切さを改めて感じた。

春風台に住んでいる高齢者や障害者の方を対象にサロンを始めたい。でも場所がない！

コロナがもう少し落ち着いてから始めたいと思う。

民生委員

始めたいという想いを叶えたい！
集まれる場所を見つけたい！

場所探し

2022年2月

春風台でレンタルスペースを行っているレストラン発見！

コロナは落ち着いてないけどこの機会を逃したらもうできないかも！

活動場所が見つかった！

サロンで使わせてもらえるか交渉

やっと始められる！

★民生委員が行ったこと★

- ・区長へ参加者募集のチラシを回覧依頼。
- ・見守りをしている方への声かけ。

資金の確保

助成金情報の提供と申請書作成の支援

いいですよ



参加者募集

チラシ作成の支援

2022年4月

他圏域のSCと筑波大学生との打ち合わせに参加

筑波大生が参加してくれることになった

他圏域のSCからの情報提供でレストランを知り、筑波大生にも参加してもらえることになった。
SC間での情報共有が大事！

Point

助成金が決定してよかった。あとは参加者が集まれば…

桜圏域には筑波大学がある。学生さんにも関わってもらいたい。何かきっかけがないかな。

サポート・様々な調整

2022年5月春風台サロン START！

今までにない特別なクリスマスになった！



レストランの中庭で学生とモルックや体操等を行いました

楽しい！
毎月楽しみにしている

クリスマス会

子どもたちも多い春風台。多世代交流もしたい！ということで、近所の方にお声かけをしてクリスマス会を開催しました。



打合せ日程調整、助成金の情報提供、チラシ作成支援

来年度は助成金がない。サロンは続けたいが…

サロン代表者

来年度について打ち合わせ

サロン参加者の所有している空き家を使わせていただけることに！

うちの空き家を使っていいよ

サロン参加者



みんなで空き家のお掃除をしました

新しい場所が見つかったよかった。春風台サロンを地域の人にもっと知ってもらいたい。

2023年4月から新しい会場に！

話し合いの場 (筑波圏域)

小田地区いきいき会議 (第3層協議体)

取り組みの背景

- ・2019 東日本台風直後の会議で、「一人暮らし高齢者が避難困難」という意見(課題)があがった。
- ・小田地域のまちづくり活性化やつくば市生活支援体制整備事業等、小田地域において様々な取り組みが進む中で、「いくつになっても安心して生活し続けることができる地域」について、民生委員児童委員と話をする機会が増えていった。

内容・プロセス

(1) 第3層協議体の立上に向けた周知活動

前述の課題解決に向け「見守り」や「防災活動」の必要性を感じ、その活動を推進するための土台(話し合いの場)として、生活支援体制整備事業に倣った「第3層協議体」を立ち上げる運びとなった。立上に向け、地域の主要なメンバーへの声かけや住民の方への周知活動を民生委員児童委員と一緒にいった。

(2) 第3層協議体会議の開催(令和3年度～4回開催)

地域の主要なメンバー(区長、民生委員児童委員、ふれあい相談員、地域関係者、地域団体、医療・福祉専門職、警察等)を集め、「見守り」や「防災活動」に取り組んでいく旨を周知した。会議での話し合いにより、下記組織体制や方向性等様々なことが構築されていった。

- 協働事務局の立上 → 住民側と社協が協働して事務局を実施(互いの強みを生かした活動を)
- 第3層協議体名称の決定 → 住民により親しみ易い名称「小田地区いきいき会議」
- 広報紙の発行 → 「小田地区いきいき通信」の全戸配付により住民にも周知
- 市実証実験への協力 → 区会毎に来る実証実験等の依頼をこの会議が一括して受け効率化
- 見守りマップの取り組み → ご近所情報に基づく、地域で見守りが必要な方を確認

(3) 防災部会の立上(令和4年度～4回開催)

防災部会メンバーは区長や副区長、区会防災担当者、警察等を中心に構成。防災部会では、地域防災マップづくりからスタート。

結果、効果

(1) 地域防災マップの作成と発表、「まち歩き」の実施

区会毎に地域防災マップを作成。地域の危険箇所や防災資源(井戸・消火栓・AED等)の発表・情報交換会を開催。

(2) 「まち歩き」の実施

作成した地域防災マップを用いて地域を歩き、避難の際の危険箇所や必要な防災方策について情報を共有していく作業を区会毎に実施。

今後は区会毎の防災組織づくり、防災講座の開催、防災体制の構築、住民向け地域防災マップづくり等に向け検討を重ねていく。

2019東日本台風直後の会議
見守り対象の「一人暮らしの高
齢者が避難困難

2019年10月

旧小田小学校区 地域見守りネットワーク会議の開催

社協の見守り事業を一
サービスとしか見えて
いなかった

『見守りをやっていればいい』
では済まされない地域の実情
この地域は本当に安心・安全？

小田地域で安心・安全に暮らせるような地域を作っていこう！

Point
支え手も支えられる側も
同じ地域住民。いついかな
る場合でも住民同士の
関わりは続いていく、

打合せの開始

打ち合わせの内容やイ
メージを図式化するっ
て難しい！

- 地域の安心・安全のための活動を話し合う場
- 見守りの推進
- 小田地域に来る実証実験等の依頼を一括する場
- メンバー等の検討

『話し合いの場』のイメージを図にした

小田地域のまちづくりの推進 (住民による小田小交流プラザの開設)

つくば市による

生活支援体制整備事業 (地域の支えあい活動の推進)

後に社協が引き継ぐ

社協の地域見守りネットワーク事業 (地域福祉の推進)

活動拠点となりうる旧小田
小学校の存在は地域の強み
の一つ

地域の関係者等の調
整は難しい！

第3層協議体を立ち上げる旨を周知・宣言

2021年 5月

8区会・多機関・多職種に よる第3層協議体の立上

●各会議やイベント等で
立上を周知していった

地域で応援していく
れる人があるのは進
める上で心強い！

協働事務局を立上
メンバーの強みを生かした
打ち合わせができた

...協働事務局の
立上

...話し合いの場の
活動開始！

『小田地区いきいき
会議』に決定！

...「話し合いの場」
の名称決定

アンケートを実施

...地域の見守りマップ
作成に取り掛かる

●見守りマップへの取り
組みに向け、区会毎の
マップを用意

●「個人情報に関わる取
り決め」も行い、みんな
で守ることを決めた

...住民周知
の広報紙

...実証実験への
協力

つくば市実証実験へ協力
・スマートシティ戦略課
・地域包括支援課

防災部会の立上に

...地域の安心・安全の
話し合いが開始

...防災マップの
作成・発表

●地域の安心安全には防災活動
が不可欠

●8区会毎にマップを作っ
ても表記がバラバラでは無意味

●防災マップ作製の手引き作成

...「まち歩き」の
実施

防災体制の検討へ

防災倉庫の除草作業：自主的な活動へ

取り組みの背景

- ・地域見守りネットワーク事業の会議の中で、梅ヶ丘団地のゴミ集積所は坂の上にあるため、坂下に住んでいる高齢者の中には、ゴミ集積所までゴミを出しに行くことが難しい方がいるという情報があつた。
- ・高齢者が多い地区のため、ゴミ出しが困難な方への助け合い活動への検討を始めることとなった。

内容・プロセス

ゴミ出し支援の必要性についてアンケート調査実施

- ・ゴミ出しの支援を希望している方がどの位いるのか把握するため、「ゴミ出し支援のアンケート」を地区内の全戸配布で実施。
- ・アンケートの結果、ゴミ出しの支援を希望する方が 10 名、今後利用したいという方が 13 名いるという事が分かった。この結果を会議で共有し、地区内でゴミ出しの支援体制を作ることになった。

「梅ヶ丘ゴミ出し支援活動」の話し合い開始

- ・料金を無料にするか有料にするか意見を出し合い、無料の方が気兼ねしそうという理由から、1 回の支援につき料金は 50 円頂くことになった。対象者はゴミ出しが困難な高齢者等とした。
- ・申込書を自治会に提出後、担当者が訪問して利用内容を説明する。
- ・内容を検討する際は、参考になるよう SC より他市町村の取り組み事例の紹介を行った。
- ・どこが窓口になるか？という課題が発生。自治会が事務局となるには役員の了解が必要という意見。

利用者とゴミ出し支援ボランティア募集

- ・自治会回覧を通して、利用者とボランティアを募集した。

自治会役員に、宝陽台でのゴミ出し支援活動を紹介

- ・自治会役員に、同じ圏域にある宝陽台宝志会の方より、ゴミ出し支援を含む助け合い活動を紹介してもらった。そこまで負担ではないと理解頂いたことで自治会が事務局になることを受け入れてくれた。

立ち上げに向けての最終検討

- ・ゴミ出し支援は見守り活動にも繋がるため、利用者の安否が分からないといった事象が起きた際は、緊急連絡先に確認するといった仕組みを取り入れた。
- ・ボランティアに説明会を実施。
- ・新しい社会資源として、ケアマネジャーに周知するため、荃崎圏域地域ケア会議で報告を行った。

結果、効果等

- ・令和 5 年 10 月より活動開始。ゴミ出し支援を待っていた利用者がいたため、大変喜ばれた。
- ・自治会長より、ボランティアが継続して活動に協力頂くためには、少しでも負担を減らした方がいいという意向から、ボランティアがゴミ捨て支援の際は、いつでも集積所に出して良いという配慮がなされた。
- ・立ち上げには、民生委員と地域支えあいサポーターの協力が大きかった。話し合いで検討してきたことを自治会で報告してもらう等、上手に調整を行ってくれたことが結果に繋がったと思う。コロナ禍で話し合いが出来ない期間もあったが、その間もキーパーソンのお二人との連絡は継続して行っていたため、検討再開もスムーズにできたと思う。

団地内高齢者の中にゴミ出しが困難な方がいる

ゴミ集積所が坂上にあるため、坂下の方は大変



2021年3月 地域見守りネットワーク会議の開催

団地内でゴミ出し支援の助け合い活動が必要ではないか？

2021年7月 ゴミ出し支援の必要性についてアンケート調査実施

アンケート作成・集計を支援

**立ち上げが
決まった**

アンケートの結果
ゴミ出し支援があったら希望したい方が10名
今後利用したいという方が13名

結果を示すと立ち上げの意識が高まるきっかけとなる

地域関係者を集めて話し合いの場づくり

希望者がいるなら支援活動を立ち上げよう！

「梅ヶ丘ゴミ出し支援活動」の話し合い開始

募集チラシ作成を支援

料金、対象者、曜日、支援内容等を検討

どこが窓口になる？自治会となると役員の負担増となり、理解が得られるか…

窓口は自治会が難しいならシルバークラブという案もあるが…

2021年12月 利用者・ゴミ出し支援ボランティア募集

募集結果
利用者 4名
ボランティア 4名

コロナ禍でなかなか話し合いの機会が設けられず…

SCはこれまでの経緯を役員会で説明

コロナ禍が少し治まり、話し合い再開

宝陽台自治会長と交流のある民生委員が場のセッティング

2022年5月 自治会役員に、宝陽台でのゴミ出し支援活動を紹介

話し合い中断中も、キーパーソンと連絡を取り合う事で、検討再開がスムーズに。

そこまで負担にはならなそう

役員の理解が得られるきっかけとなった

どこにアプローチすると活動が進むのか、見極めながら支援していくことが重要。

立ち上げに向けて検討を重ね…

ごみ出し支援活動を見守り活動にも繋げてほしい

会議で提案

- ・他市町村の事例を紹介する。
- ・緊急連絡先の把握、安否確認が取れない際の対応の検討。
- ・最終決定に向けて、詳しい活動内容の確認。
- ・ボランティアへの説明会の実施



今後はボランティアが継続しやすい工夫が必要だね。

2022年10月 「梅ヶ丘ゴミ出し支援活動」 スタート!!

情報提供
新しい社会資源として、地域ケア会議でケアマネジャー等にお知らせ。

①		②	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
大穂圏域	話し合いの場	吉沼小学校区(大穂)	その他
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
第2層協議体等で話し合いを重ねても、具体的な取り組みに対する方針が定まっていなかった。大穂圏域の今後の会議方針等をざっくばらんに話し合うための場が必要であると考えた。今後の方向性を決定していくためにも大穂圏域で様々な役職に就かれている方をメンバーとして集めて話し合いを開催することとした。		地域で行われている事業が地域に周知されていないとの意見から、知るきっかけとして社会資源集の作成を行うこととした。圏域全体で作成するのではなく、まずはやってみたくと意見のあった吉沼小学校区でのみ作成することとした。作成後にはモデルケースとして他地区作成時の参考としていく。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「大穂圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 第1回コアメンバー会議を開催し、これまでの会議で出された意見を共有し、各メンバーから意見を出してもらった。意見からシルバークラブ等の既存の活動が継続していけるような支援を行っていくべきとの意見がでた。 地域支えあい会議にて意見を提示し、会議後に第2回コアメンバー会議を開催し、反省等を行った。今後も継続してコアメンバー会議を開催していきたい意思を伝え、引き続き協力をしてもらうことのできた。		「吉沼小学校区社会資源集の作成」 ・吉沼小学校区で会議を行い、作成メンバーを選定し、内容等や掲載する団体等を話し合った。内容決定後データ収集を進めるために、各団体へ依頼を行った。 ・地域で行われている様々な活動を収集するために、区長及び地域交流センターの協力もお願いした。 ・全4回の作成メンバー会議を行ったことで、社会資源集が完成。地域交流センターのほか、各区長へ配布していく等、地域住民が知るきっかけとしていく。 ・その他、活用方法やデータ更新の手続きなどを話し合っていく。	
③		④	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
豊里圏域	話し合いの場	上郷大山地区(豊里)	生活支援活動
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
第2層協議体において地域課題の共有や情報交換を行ってきた経緯がある。ただ、それら意見を活かす手法が見いだせずにいた。今後の方向性を決定していくためにも主要となるメンバーを選定し、会議を行うこととした。		地区内で困りごとを抱えている一人暮らしや高齢者世帯に対し、地域住民による助け合い活動や見守り活動を中心とした地域活動グループが立ち上がった。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「豊里圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 ①事務局内で人選をする(小学校区を考慮) ②第1回コアメンバー会議を開催 ・今までの第2層協議体会議の経過報告 ・中心的な立場から意見を出せるメンバーの人選と今後の方向性を話し合えたことが成果である。 ・豊里圏域で情報共有できる社会資源集を作成することになる。 ③第2回～第5回会議を開催 ・コアメンバー同士での社会資源集の掲載内容確認と情報交換を行った。		「ほのぼのクラブ」の立ち上げ支援 ①地区内の中心の方々と話し合いを重ねる。 ・地域力を活かして高齢者等のちょっとした困りごとに対応するための組織づくりを目指してきた。 ・何気ない状況変化にも気づくことの大切さが必要であり、見守りの重要性を確認した。 ②令和4年4月から活動開始 ・9名のメンバーと今後の活動について確認する ③活動内容として一人暮らし高齢者宅の庭木の剪定作業・花壇整備事業などを行っている	

⑤		⑥	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
富士見ヶ丘(谷田部西)	生活支援活動(見守り)	高須賀(谷田部西)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・地域内に高齢者が増加し、見守り活動の強化が必要との声が上がった。 ・1年前に地域支えあいマップを作成し、支援が必要な高齢者情報を関係者が情報共有している。 ・地域に食事作りに興味がある主婦がいる。 ・見守り体制を強化することは重要だが、役割がある人だけではなく地域全体でやれるような取り組みが必要。		・商店やスーパーが閉店し買い物が不便なため、カスミの移動スーパーを利用する高齢者が増加。移動スーパーが来る前に高齢者が集まり話をしているので研修センターを開放しサロンができないとの声上がる。 ・新型コロナの影響により、地域活動が中止。高齢者が多く、若い人との交流がない。多世代交流ができる場があったらいい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「富士見ヶ丘つながり NET」の設立と食を通して「見守り・交流」支援 ・地域のつながりの構築や見守りや交流を行うことを目的に「食を通してのつながり」作りを行うため 2022 年 7 月「富士見ヶ丘つながり NET」を設立。 ・主婦が集まり、2022 年 12 月から月 1 回お弁当を手作りし支援が必要な住民にお弁当配付事業を実施。利用者は、50 名を超え徐々に地域のつながりができている。 		「移動スーパーから始まる集いの場」支援 ワイワイガヤガヤ！多世代交流 ・地区担当民生委員とふれあい相談員が中心になり、月 1 回の地域の集まりの場。参加者は高齢者が中心。高須賀サロンは、立ち上げから筑波大学学生サークル「かざぐるま」の学生や JA やたべの野菜提供の協力があり、多世代交流が行われている。 ・今年度には、学生と高齢者が「高須賀マップ」を作成し、情報共有を行った。 	
⑦		⑧	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
島名(谷田部西)	通いの場	真瀬地区(谷田部西)	生活支援
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・高齢者が増加し、住民の皆さんが「身軽に交流できる居場所があったらいいな」の声 ・コロナの影響で、地域活動の中止や縮小		・社協の食事サービスがコロナの影響により中止になり、「何か見守りに代わるものがないか」の声(コロナの影響で住民同士の交流が減少) ・定期的な高齢者の見守りを地域住民チームとして行うことができないかの声上がる。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
地域の居場所「コスモス会」の立ち上げ・支援 ・民生委員を中心とした地域の公民館を会場としたサロンを開催するため、地域住民が気軽に集まれるサロンになるよう立ち上げ支援を行った。 ・コーディネーターは、活動しやすいように「つくちゃん地域支えあい活動助成金」の申請支援を行った。		地域の力を結集して「食を通してつながりづくり」と見守りと交流事業「本鎌むつみ会」立ち上げ・支援 ・住民のつながりを再構築するため、または、見守り・交流を目的とした「本鎌むつみ会」を 2022 年 10 月に設立。本田地区・鎌倉地区の住民対象に配食事業を開始。今年度は 11 月・3 月に実施。SC は、会の設立や助成金申請支援・初回実施の支援を行った。次年度は、お弁当配達と対面での食事会を予定している。	

⑨		⑩	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
春日・東平塚地区(谷田部東)	通いの場	研究学園(谷田部東)	話し合いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・比較的高齢化率の低い春日地区だが、高齢者が増えてきた。また学生も多く居住している中で、住民の孤立が気になるとの民生委員の声。 ・地域には住民が集まれる会館のような場所がない。 ・「地域にある空き家や空き店舗を活用して、住民が気軽に集える場をつくりたい」との民生委員の声。		・研究学園地区が形成されて約15年。区会がない地域も多く、どのように住民同士のつながりをつくればいいか悩んでいる状況があった。 ・研究学園地区は地域を基盤に活動している団体が多数存在する。個々の活動は活発に行われているが、団体間のつながりはまだない。→団体同士がつながることと地域のことを一緒に考えられるのではないかな？	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
地域の憩いの場づくり支援 「春日の森 NET」設立と古民家改修プロジェクト ・地域の中の空き店舗と古民家を、住民の憩いの場となるよう整備を行っている。この取り組みの活動主体として「春日の森 NET」を設立。 ・SCは、拠点の整備にあたって利用できる制度等の情報提供、関係機関との連絡調整等のサポート、拠点の整備を住民と一緒にやっている。 ・7月に裏庭を利用した地域交流イベント、11月には認知症声かけ訓練を行った。		「活動団体交流会の実施と地域交流イベント開催」 ・研究学園地区で活動している団体間がつながり、情報を共有したり、課題を一緒に解決していけるような話し合いの場づくりを行った。今年度は3回交流会を開催。 ・SCは準備会の実施に向けた調整を行い、実際の運営は参加者が主体になって行っている。 ・交流会の話し合いを元に、「ハロウィン」「さくらまつり」などの地域イベントを実施。地域の交流の場づくりにも寄与した。	
			
⑪		⑫	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
荻間(谷田部東)	話し合いの場	高野台(谷田部東)	生活支援活動
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・TX 開通後、新しいまち(学園南等)ができ、人口が増えたが「地域が分断されてしまっている」「以前のような地域のつながりがなくなってしまった」との声。 ・サロンとは別の切り口で、「高齢者だけではなく、様々な世代や役割の人がつながり地域のことに考える場が必要だ」との地域支えあいサポーターの声。		・地区内に高齢者が増え、区会の役員等ができない高齢者が増えてきている。今後、ちょっとしたことに困る高齢者が増えてくるのではないかなとの声。 ・「ささえあい・つくば」の生活支援活動に関する特集を見たシルバークラブ会員から民生委員に、「こういう活動をやりたい」との相談があったことを、NW 会議の場で共有。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
地域の支えあいについて考え、取り組む場の支援 「葛城地区つなぐ会」 ・地域のつながりをつくり孤立・孤独を防ぐことを目的に、R3年10月に「葛城地区つなぐ会」が設立。 ・6月に「防災ウォークラリー」の開催、7月には新たに交流館でサロンを開始した。7月には支えあいマップを作成し「ご近所さん☆ささえあい隊」の活動を立ち上げた。来年度は、高齢者を対象とした配食事業も開始する予定。		「シルバークラブと考える生活支援活動」 (高野台シルバーレインボークラブ) ・地域の中で希望する高齢者に対して、シルバークラブが実働部隊として生活支援活動を行うことになった。まずは週2回の燃えるゴミの日に、集積所までゴミを運ぶお手伝いを4月から始めた。 ・「車がなくなったら移動をどうするか？」など、他の福祉課題について考えるきっかけにもなり、交通政策課に出前講座の依頼をし、話を聞く機会をSCが調整した。	
			

⑬		⑭	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
竹園地区(桜)	通いの場	栄・栗原小学校区(桜)	話し合いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
竹園をより良いまちにしていくための話し合いを行っている竹園まちづくりの会で、誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりを行うことが決まった。 子どもたちが放課後立ち寄っておしゃべりや宿題をしたり、外国人や子育てをしている方の相談ができる場所などを目指していく。		桜川の氾濫による洪水等の危険性が高い地域であるため、防災への関心が高い。防災をきっかけとした日頃からできる地域住民との関りや助け合いのしくみづくりなどを進めることによって、地域づくりに繋げていきたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「竹園ぷらっと」の活動支援 ・令和4年5月から開始。 ・竹園交流センター和室にて毎月第2木曜日14:00～17:00に開催。 ・社協のつくちゃん助成金を活動資金としている。 ・キッズスペースを設け、子どもの権利に関する勉強会を行ったり、参加した住民と情報交換を行っている。 ・SCも参加し、意見交換や情報提供をしている。		「防災意見交換会の開催」 ・令和4年5月30日(月)に防災勉強会を開催。 ・栄地区、栗原地区区長会に参加し、防災勉強会の報告をした。 ・地域支えあいサポーターと打ち合わせを重ね、少人数で意見交換をする機会をつくることにした。 ・令和4年11月25日(金)防災意見交換会を開催。域では防災活動は行われていないという現状を知ることができた。まずは桜川に関心を持ってもらうためにイベントの開催や河川敷の整備等を検討していく。	
⑮		⑯	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
桜圏域	話し合いの場・その他	水守(筑波)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・令和3年度桜圏域地域支えあい会議において、桜圏域にある社会資源をリスト化してはどうかという意見があった。 ・令和4年度桜圏域地域支えあい会議で意見交換をし、社会資源集を作成することが決まった。		・新型コロナウイルス等により、地域行事や人との接触が少なくなり、過去あった地域のつながりが薄れてきてしまっていた。 ・誰でも参加することができる定期的な地域の交流の場の必要性。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「桜圏域版社会資源集の作成」 ・令和4年9月に社会資源集作成検討チームを結成し、毎月1回話し合いを行っている。 ・団体や個人に活動の詳細を書いてもらうデータカードを作成した。 ・桜圏域全体としての一つの取り組みを始めることができた。チーム会議では意見がたくさん出てとても活発な会議を行うことができていく。 ・令和5年度中の完成を目指して作成していく。		地域の通いの場「ふれあいサロン白秋」の立上 ・過去、地域支えあい会議や地域見守りNW会議等で「地域の通いの場」をテーマにした話し合いや事例の紹介をSCが行ったことで地域の方にその必要性を感じていただき、立ち上げを行う方向で話を進めた。また、立ち上げに向けた地域の意見交換会にもSCが参加した。 ・準備会の開催を目指し、「つくちゃん地域支えあい助成金」の紹介やメニューの紹介等を一緒に進めた。 ・2/3(土)準備会の開催、「ふれあいサロン白秋」という名称で、令和5年4月から毎月の開催を行う。	



⑰		⑱	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
田中	その他	旧北条小学校区	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・昭和 61 年、令和元年の2回に亘って、桜川氾濫により、田中地域内で浸水被害が起きたことがあった。 ・安心して暮らせるまちを目指し、田中地域の防災士を中心とした防災会議が進められてきた。		・地域見守りネットワーク会議や地域支えあい会議で、北条地域内にあるふれあいサロンの見学をしてみようという話が上がった。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「田中地区防災キャンプ」への参加 ・上田中地区、下田中地区の防災会議へ社会福祉協議会として SC が参加。・防災活動には地域のコミュニケーションが不可欠であり、初の試みである「防災キャンプ」の開催に向けた話し合いを防災士と行った。 ・2/4 に開催された「防災キャンプ」では、避難所までの距離を実際に歩く体験やサバイバル飯炊き体験が行われた。社協として、新聞紙でできるスリッパづくりや簡易毛布担架の体験コーナーを設けた。		旧北条小地域支えあい会議メンバーによる「桜池サロン」の見学 ・旧北条小学校区の支えあい会議（第2層協議体会議）メンバー10 名を2グループに分け、桜池サロンを訪問。 ・サロンの運営側（ボランティア）と参加者側の思いを聞くことができた。その上で、メンバーで集まり、旧北条小地域における「地域の通いの場」づくりに向けた意見交換を行った。	
			
⑲		⑳	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
荃崎圏域	話し合いの場	あしび野(荃崎)	見守り・声かけ
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・地域支えあい会議の話し合いの中で、荃崎には地域活動が多いことから、荃崎版の社会資源集として冊子にまとめていく取り組みを行うことになった。 ・冊子にして活動を地域の方に情報提供することや圏域内で不足している社会資源を把握し、そこを補っていく活動に繋げることを目的とした。		・見守り活動を担当しているふれあい相談員より、団地内の高齢化が進んでいるため、農園を通した見守り活動を始めたいと相談があった。 ・農園を憩いの場として交流を行ったり、農園で採れた野菜を閉じこもりがちな高齢者宅に届けることで、繋がりを重視した見守り活動に繋がりたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「荃崎圏域版社会資源集の作成」 ・まず、地域支えあい会議で、どのような地域活動を掲載するかということや活動情報を記載する様式（データカード）の検討を行った。 ・荃崎の社会資源となる地域活動（シルバークラブ、ふれあいサロン、体操クラブ、地域の支え合い活動等）の団体に、活動内容を記載して提出して頂けるよう協力を依頼した。また、区会で把握している地域活動については、区長に協力を依頼。 ・提出頂いたデータカードをカテゴリーごとに分け冊子にまとめ、区長、民生委員、ふれあい相談員等、地域関係者に配付を行った。		「あしび野ふれあい農園」 ・ふれあい相談員の呼びかけにより、あしび野住民の方たちに協力頂き、農園の整備や野菜の種まきを行った。 ・SCは、農園を運営する活動資金に充てる助成金の情報提供を行う。 ・苗植えや野菜に収穫に際して、住民の方にご協力頂いたり、地域の子供達に手伝ってもらったりと地域交流に繋がっている。 ・採れた野菜を高齢者等にお配りしながらお話を伺う機会を設けることで、自然な関係形成が図れている。また、必要に応じて介護保険や地域包括に繋ぐ等、高齢者が安心して暮らせる地域づくりの一助となっている。	

第4章 第2層協議体(地域支えあい会議)の開催

大穂圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

各小学校区で行った会議について報告する他、各地域で行われていることを参加者同士で話し合い、自分の地域に持ち帰ることで、今後の活動の参考としていく情報共有・情報交換の場としていく。また、地域で新たに始まった取り組みを紹介することで、地域活動の発展を目指す。

実施日

【第1回】令和4年8月23日(火)13:30～15:00 大穂交流センター2階研修室

【第2回】令和5年3月22日(水)13:30～15:00 大穂交流センター2階研修室

テーマ・内容

【第1回】・各小学校区地域見守りネットワーク会議報告

- ・新たに生まれた地域資源の紹介(大曾根みんなの食堂代表のお話)
- ・大穂圏域コアメンバー(仮)会議から出た意見 今後の方針(案)として

【第2回】・各小学校区地域見守りネットワーク会議報告

- ・吉沼小学校区社会資源集について紹介
- ・自分の地域での「居場所」や「通いの場」について意見交換(グループワーク)

話し合いから出た課題

- ・高齢者になっても働いている方が多くなってきており、何かを始めようにも担い手がない
- ・地域ごとに抱える問題は異なるので、テーマ別にグループを作り、掘り下げていければ、さらに具体的な活動に繋がるのではないかと
- ・地域にある活動を知るきっかけがなく、地域で何をやっているのか知らないことが多い
- ・人との関わりを築くためには中心になる物(人)が必要であるが、そのようなものは簡単に見つからない
- ・サロンなどは家に閉じこもりがちな人の利用が理想だが実際はそうでない、民生委員やふれあい相談員が呼び込んで来てもらえるようにするのが望ましいがどのようなやり方がいいか不明
- ・自分の地域でも知らない活動が多く、知るきっかけがやはり大切
- ・通いの場があることで安否確認に繋がれるが一度引き受けると交代者がおらず大変である
- ・地域のお祭りでは新住民との繋がりが作れたり、地元を出て行ってしまった人が戻ってきて一緒に楽しんだり、良い効果が得られているが、活動が減ってきてしまっている。

豊里圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

生活支援体制整備事業について今まで話し合ってきた経過報告を振り返るとともに、令和4年度に実現できる具体的な活動について話し合っていく。

実施日

【第1回】令和4年8月25日(木)10:00～11:30 老人福祉センターとよさと

【第2回】令和5年1月31日(火)10:00～11:30 老人福祉センターとよさと

テーマ・内容

【第1回】・生活支援体制整備事業及び社協が進める第2層協議体について

- ・第2層協議体(話しあいの場)の経過報告(平成30年度～令和3年度)
- ・令和4年度に実現できる具体的活動について

【第2回】・豊里圏域版社会資源集の発行に向けて



地域支えあい会議のようす



コアメンバー会議のようす



社会資源集の作成

話し合いから出た課題

- ・今までの第2層協議体会議では、地域の課題解決に向けた地域住民同士の助け合い活動につながる具体的な意見が少なかった。
- ・区会において助けあい活動をしたいのだが住民の理解がなかなか得られない。どのようにして賛同者を増やしていけばいいのだろうか。
- ・高齢者の移動支援、ゴミ出し支援は地域住民の横のつながりによって解消される。
- ・ふれあいサロン等による高齢者の居場所づくりをすることが大事(必要)ではないか。
- ・地域住民による見守り活動を浸透させるためにも、チラシ等を作成、配布して周知する。
- ・長年住んでいても、どこで何をやっているのか地域活動を知らないことが多い。見える化が必要ではないか。
- ・より具体的な活動方針を決めていくためにも少人数で話し合っていくことが必要と思う。
- ・豊里地区の様々な活動情報を広く知ってもらうための情報誌(社会資源集)を作ろう。
- ・豊里圏域版社会資源集を今後どのように利活用していくかが大事ではないか。

谷田部西圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

谷田部西圏域では、多くの地域で居場所やカフェスタイルのサロンや食を通した「見守り・交流」など多くの活動が行われている。地域支えあい会議では、圏域内や圏域外での活動の取り組みを発信したり、活動状況などを共有する場としている。この会議で、多くの活動報告をしていながら地域活動に活かして頂くことや活動が広がることを目標とする。

実施日

【第1回】令和4年8月2日(火)13:30～15:30 市民ホールやたべ 大会議室1

【第2回】令和5年2月17日(金)13:30～15:30 市民ホールやたべ 大会議室1

テーマ・内容

【第1回】(R4年度)地域支えあい会議の内容検討

(R3年度)生まれた活動報告／グループワーク等

【第2回】(R4年度)谷田部西圏域内での地域活動報告会(7団体)



話し合いから出た課題

- ・活動をしたいが活動場所がない。
- ・地域の課題を把握しているが、「どこから」「どのように」すすめていけば良いかわからない。
- ・一緒に活動をしてくれる仲間をどのようにつながっていけばいいのか。
- ・サロンや居場所など多くの活動場所はあるが、本当の意味で「支援が必要」だと思う方をどのように活動に参加していただくか
- ・担い手に若い世代も入ってもらうようなPR

谷田部東圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

「情報共有・発信」の場。すでに地域で数多くの活動が行われている谷田部東圏域では、参加者がこの会議から得られた情報を地域に持ち帰り、普段の活動に活かすことで、地域で行われている活動がさらに広がる・発展することを目標とする。

実施日

【第1回】令和4年8月4日(木) 13:30～15:00 市民ホールやたべ大会議室1

【第2回】令和5年2月7日(火) 13:30～15:00 市民ホールやたべ大会議室1

テーマ・内容

【第1回】テーマ「“話し合いの場”から広がる地域の支えあい」

「葛城地区つなぐ会」の実践報告／グループワーク

【第2回】テーマ「“つながり”で支える、地域の見守り」

稲荷前3区地区ふれあい相談員・民生委員からの実践報告／グループワーク



話し合いから出た課題

- ・活動を進めるためにはどうしてもお金が必要になる。市としてバックアップしてくれると、住民の活動もやりやすくなるのではないかな。
- ・地域に対する想いがあるても、想いを持つ人同士のつながりづくりがしづらい。どのように仲間づくりをしていけばいいのかな？
- ・活動をしたくても、活動をする「場所」がない。
- ・少子化や地域の高齢化の影響で、昔からあったイベントなど、地域の集まりの場がなくなってしまった。
- ・集まりの場は地域にあるが、そういった場に出て来られない人はどうすればいいのかな？
- ・それぞれに地域の特色がある中で、見守り・支えあいをどう組織化していくのかな？

桜圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

令和3年度に出た5つの議題について話し合いをしていく。

(5つの議題)

①高齢者だけでなく児童や障害者についても考えていく②地域の状況を再度把握する③交流センターの活用について考える④すでに助け合い活動等をしているところの話を聞く⑤現在ある社会資源等についてリスト化する

実施日

【第1回】令和4年8月24日(水)10:00～11:30 研究交流センター 第2会議室

【第2回】令和4年12月21日(水)研究交流センター 第2会議室

10:00～11:30 (九重・栗原・栄小学校区)、

13:30～15:00(吾妻・竹園西・竹園東・並木・桜南小学校区)

テーマ・内容

【第1回】・生活支援コーディネーターの活動報告

- ・5つの議題について各小学校区で行った意見交換の報告
- ・意見交換
- ・筑波大学生の活動発表



【第2回】・生活支援コーディネーターの活動報告

- ・桜圏域版社会資源集の作成について意見交換



話し合いから出た課題

5つの議題のうち、「⑤現在ある社会資源等についてリスト化する」という議題に対しての意見が多く、地域活動を行っている区長、民生委員、ふれあい相談員やケアマネ等の専門職の方にとっても、社会資源集があることで活動しやすくなるというメリットがあるということだと思う。高齢者の介護予防や閉じこもりを防ぐという目的もあるため、見やすい冊子を作ること、必要な方に渡すことができるようにしていく必要もある。

桜圏域版社会資源集を作成するという一つの目標ができたことで、会議員も参加しやすくなったのではないと思う。社会資源集によって桜圏域の状況が可視化され、社会資源集をテキストとして使い、その他の4つの議題の話し合いも進めやすくなることが期待される。

作成後は、地域での活用状況を把握したり、更新するタイミングについて話し合ったりと、継続した話し合いを行っていく。

筑波圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

生活支援体制整備事業推進における、主な4つの地域活動「通いの場」、「話し合いの場」、「見守り」、「生活支援」をテーマとして、事例紹介や情報提供等を行い、小地域での活動が広がるよう活発な意見交換の場にしていく。

実施日

【第1回】令和4年8月4日(木) 13:30～15:00 市民ホールつくばね2階会議室

【第2回】令和5年3月16(木) 13:30～15:00 市民ホールつくばね2階会議室

テーマ・内容

【第1回】テーマ「地域の通いの場」

筑波圏域「平沢明朗会」の活動報告／旧小学校区別の話し合い

【第2回】テーマ「生活支援」

荃崎圏域「宝陽台宝志会」福祉活動の歩み発表／旧小学校区別の話し合い



話し合いから出た課題

【第1回】

- ・通いの場が必要な地域や適切な場所等の検討をしたい。
- ・通いの場を実際に見学したい。
- ・サロンやシルバークラブにとらわれない、魅力的な通いの場を検討したい。
- ・区会単位等身近な通いの場が必要である。
- ・サロンは男性の参加者が少ない。

【第2回】

- ・体系的な組織による助け合いも必要性は理解できるが、いざつくるとなると難しい。
- ・一回いくらという形で生活支援を行った方が双方にとって良い場合もある。
- ・見守り活動の充実により、地域で必要な生活支援活動が見えてくる。
- ・旧筑波町ならではの地域による助け合いも存在している。

荳崎圏域 地域支えあい会議

今年度の会議の目標

- ・荳崎圏域版社会資源集の最終確認・発行。
- ・資源集の活用方法、また、沢山ある地域活動の活性化や福祉的視点を持った活動に発展させる方法等を検討する。

実施日

- 【第1回】令和4年 5月26日(木)13:30～15:00 荳崎保健センター 会議室
 【第2回】令和4年 11月18日(金)13:30～15:00 荳崎保健センター 会議室
 【第3回】令和5年 3月22日(水)13:30～15:00 荳崎保健センター 会議室

テーマ・内容

- 【第1回】テーマ「荳崎圏域版社会資源集作成して」
 ・目的・活用方法・配布先について
 ・今後の取り組みについて
- 【第2回】テーマ「地域活動事例紹介/荳崎圏域版社会資源集の活用方法」
 ・あしび野ふれあい農園/梅ヶ丘ゴミ出し支援活動立ち上げの報告
 ・資源集をどのように活用していくと良いか？(グループワーク)
- 【第3回】テーマ「荳崎圏域版社会資源集の活用方法」
 ・資源集をどのように活用していくと良いか？(グループワーク)
 ・活動団体同士の交流を図るためには？(グループワーク)

話し合いから出た課題

- ・資源集を定期的に見直し、アップデートさせていくことが必要。
- ・地域活動を多くの人に知ってもらうための工夫が必要。もっと内容をコンパクトにしてチラシにして配布することや各地区の集会所にも配布する等も考えてはどうか？
- ・同じような活動をしている団体やサークル活動の交流会を行い、情報交換を行ったり、一緒にできること等を検討することで活動の活性化を図る。
- ・区長にも周知していくことが必要。
- ・助け合い活動に繋がる取り組みに発展していくことも大切。



【地域支えあい会議(第2層協議体)の課題と今後の方向性】

現在各圏域ごとに開催されている「地域支えあい会議」について、課題と今後の方向性について検討するため、地域福祉アドバイザー指導の下、「カードワーク」の手法を用いて「つくば市の第2層のあり方」について整理を行った。



SC が考える「第2層協議体のあり方」について、結果を整理したカテゴリー表は以下のとおりである。

カテゴリー	サブカテゴリー	概 念		
理想の話し合いのカたち	住民主体	住民主体	SC 主 導 で はない	住民自身が必要だと思える場
		次の集まりは会議員の呼びかけで決めることができる		
	楽しい雰囲気	ワイワイガヤガヤ	皆同じ位置	楽しく話せる
		笑いがある	来ると楽しい	SC も楽しく参加
	アイデアの宝庫	ざつくばらんに話せる	活 動 の き っ かけを得る	地域の自慢大会でも Ok
		ざつくばらんな意見交換	アイデアがたくさん出る話し合いの場	
	地域課題の解決	地域課題をみんなで考える場	地域課題解決の場	

	住民の自主性の尊重	無理にやらせない	ボトムアップ	
	誰でも参加できる場	会議員は決めない	仲間と出会う場	様々な年代が参加
		自由に参加	多世代	
	住民目線	地域の人の話が大事（ニーズ）		
地域にあった理想の範囲	地域にあった理想の範囲	小地域	地域ごとの活動	

まず、一つ目の大きなカテゴリーとして「理想の話し合いのあり方」というものが挙げられた。SC 自身がイメージする、理想の2層会議のあり方である。二つ目のカテゴリーとして挙げられたのが「地域にあった理想の範囲」である。

(1) 住民主体

全ての圏域の SC が考える2層のあり方として、共通していたのが、「住民主体」という概念である。現在は、SC(社協)が会議員のリストに基づいて通知を発送し、出席をお願いしているが、将来的には、住民自身がテーマや参加者などを決定して主体的に会議を運営し、住民自身が課題だと思っていることについて話し合い、解決に向けて働きかけていくような場所としていきたい。

(2) 会議の雰囲気、参加の気軽さ

また、「楽しい雰囲気」「誰でも参加できる場」など、会議の雰囲気や参加の気軽さなども非常に重要な要素であることが分かった。また「アイデアの宝庫」「地域課題の解決」という概念から、SC にとって第2層協議体が「参加者が持つアイデアや情報を持ち寄る場」「情報交換を元に、地域に存在する課題の解決に向けて働きかけていく場」という認識であることがわかる。

(3) 地域に合った理想の範囲

次に大きなカテゴリーとして挙げられたのが「地域に合った理想の範囲」である。住民が身近に感じられる地域の範囲、また実際の活動を立ち上げる範囲のイメージは、圏域というよりは「小地域」(区会～小学校区レベル)であるということも、SC の活動から明らかになった。これらの規模感を意識したうえで、会議内容の検討、話し合いの場の持ち方を検討していく必要がある。

第5章 今年度の成果と今後に向けた課題

1) 今年度の成果について



「見つける・発掘する」という役割では、各圏域で行われた「地域支えあい会議」や、小学校区ごとに行われている「地域見守りネットワーク会議」で出た声から、各地域の課題の把握に努めた。SC が課題として把握した内容については、後述する。また、圏域によっては「社会資源集」を作成し、地域に存在している資源を見える化することで、住民が地域についての理解を深めたり、新たな魅力の発見につなげたりできるようなツールの創出をすることができた。

「つなげる」という役割の中では、各関係機関や必要な資源をつなげることで、地域の中での支えあいの仕組みの創出をすることができた。また、圏域によっては「地域支えあい会議」の中で情報共有の場を設け、住民同士や活動者自身をつなげる場をつくることで、課題の共有・解決に向けた働きかけのきっかけとなる場にもなっている。

「つくる」の役割では、前章に挙げた27の取り組みの立ち上げにSCとして関わることができた。また取り組みの立ち上げに至るまでのプロセスを整理することで、他地域での活動にも今後活かすことができると考えられる。

「発信する」の役割では、instagram のような SNS ツールの活用、「社協通信つくば」を活用し、本事業の趣旨や目的、地域で行われている取り組みを発信することで、活動に賛同する仲間が増えたり、広報物を目にしたことをきっかけに住民が新たな取り組みを始めるなど、地域の支えあいに取り組む輪を広げるきっかけをつくることができた。

2) 今年度 SC の地域活動の中から把握された課題の整理

令和4年度の目標として、【見つける・発掘する】機能を重点的に強化を挙げた。1年の SC の活動を通して把握された課題を、生活支援体制整備事業で推進したい4つの取り組み(「通いの場」「話し合いの場(協議体)」「見守り・声かけ」「生活支援活動」)の4つに分け、カードワークの方法を用いて整理を行った。



(圏域ごとに付箋の色を分けている。大穂＝濃ピンク、豊里＝オレンジ、谷西＝黄色、谷東＝黄緑、桜＝水色、筑波＝青、荃崎＝淡ピンク)

SC が活動の中で把握した課題を整理したカテゴリー表は以下のとおりである。

カテゴリー	サブカテゴリー	概念		
通いの場	活動資金の確保	活動資金の確保		
	拠点不足	場所がない	身近に集まれる場所がない	
	参加者の固定化	参加者が増えない	年齢層により仲の良し悪しがある	仲間になっていて新しい人が入りにくい
		参加者減		
	女性偏向	男性参加者が少ない		
	担い手不足	後継者がいない	地域のキーマンを知らない	若い人の協力が無い
	担い手の高齢化	サロン運営者の高齢化		
	足の問題	足の問題		
	参加者の高齢化	コロナで休止している間参加者の体力が低下した		
		高齢になりサロン会場に行くことが難しくなっている		
	その他	地域のしがらみによる精神的なハードル	各種書類の手続きが大変	通いの場の多様化
		世代を超えて繋がる場がない	地縁の希薄化	一部の人に負担がかかる

話し合いの場 (協議体)	自由で多様な話し合いの場の必要性	NW会議、支えあい会議以外で地域の声を聞く場がない		自由に話ができる場が欲しい	
	参加者の固定化	若い方たちの参加が少ない	第2, 3層エリアの参加者が少ない	日中働いている人が参加しづらい	
		会議員を絞れない	70歳以上でも働いている人が多く日中の活動が難しい		
	課題解決力向上の必要性	課題はあるが解決に向けた話し合いにならない			
		課題はたくさんあるが解決策の共有までは難しい			
	事務局主導	まだまだ事務局主導	SC主導の会議	住民主体ではない	
		住民主体の実現の難しさ	充て職であるため責任感の希薄化	住民主導で行うにはハードルが高い	
その他	ファシリテーションが難しい	課題が出ない			
見守り 声掛け	担い手不足	担い手がいない	地域に協力してくれる人がいない	ふれあい相談員がいない 頼める人もいない	
		ふれあい相談員、支援員の減少	ふれあい相談員のなり手がいない	旧住民を新住民が見守ることは難しい	
		相談員自体見守りが必要な年齢となっている			
	見守り登録の壁	登録制のハードルの高さ	登録をしつがらない		
	関係構築の難しさ	他者との関わりを拒否する高齢者をどう見守ればいいのか			自宅訪問に対する難しさ
		マンション・アパートに住んでいる高齢者の情報がない			
		マンションの人は人との関わりをそれほど望んでいない			
	理解不足	民生委員の連携がない地区もある			区会の協力が乏しい
		地域として見守りを推進する母体がない(例: 区会)			
	見守りの不要論	不要な地域もある(世帯数が少ない)			
		見守りの必要性をあまり感じない			
	個人情報	個人情報の壁	ふれあい相談員と民生委員の情報共有が難しい		
		個人情報の問題があり自治会内でも進みにくい			
	その他	災害時の対応の不安	いざという時のマニュアル不足	見守り方の多様化	
		見守りの言葉が重い (見張られているイメージ)	ふれあい相談員の負担が大きい	見守ってほしいと言えない	
ふれあい相談員の定数		新しい地区で近所同士のつながりが少ない			
生活支援活動	担い手不足	リーダー的な人がいないため行えない			
		必要なことはわかっているが担い手がいない			
	行政・サービス事業所への依存	大変だとは思っているが解決するのは行政だと思っている人が多い			
		ちょっとしたことを支えてほしい高齢者はたくさんいる			
		関係者が高齢で何かを立ち上げるのが難しい			
	仕組みをつくる難しさ	「仕組み」をつくりにくい	ハードルが高い		
		サービスとして生活支援は受け入れづらい			
		専門職からの依頼はあるが対応できない			
	生活支援不要論	困っている方がいない	皆困っていないという	必要性を感じていない	
		困っている・助けてと言わない			
	事故に対する不安	運転の不安	事故や何かあった時不安		
	その他	活動費が必要	活動は始まったが利用者がいない		
		自治会の理解がないと始められない			
若い方たちの地域活動の参加が少ない					
地縁・血縁による生活支援は把握できない					

付箋の色がバラバラに散らばっていることからわかるように、SCの地域活動を通して把握された課題は非常に多岐にわたる。圏域によって地域性が大きく異なるため、課題の整理が非常に困難であった。

(1)担い手の問題

殆どの活動に共通する課題と見られたのが「**担い手の問題**」である。担い手の高齢化、若い世代の参加がない、地域の中に協力者がいない、などである。「必要なことはわかっているが担い手がいらない」など、支えあいの必要性は感じていても担い手の問題に直面し、活動を始められないケースもみられる。地域の中で、支えあいの担い手を見つける、つくる、育てる取り組みをSCが地域とともに進めていく必要がある。

また本事業を、「一緒に支えあいを担う仲間を増やす」という視点から、子どもや若者世代(学生など)子育て世代などにも本事業を周知し、協力を募っていく必要があると考えられる。

(2)地域やSCだけでは解決できない課題

「**個人情報**」に関する課題(見守り)や、「**足の問題**」(通いの場)「**事故に対する不安**」(生活支援活動)など、既に地域で行われている活動を広げる・進めていくために課題となっているものが存在していることがわかる。また「**仕組みをつくる難しさ**」など、活動を新たに起こすことに対して、住民や地域だけではなく、SC自身も課題と捉えていることが分かった。これらの課題は、住民や地域だけで解決することは難しく、行政、その他関係機関等と広く連携し、住民が安心して活動できる環境を整えていくことが必要である。

(3)共通する課題

地域課題が多様である一方で圏域を越えて共通した課題が存在していることもわかる。共通の課題を持つ地域や団体等をつなぎ、解決に向けて働きかける場を作る必要がある。

(4)「住民主体」の会議の実現

支えあい会議(第2層協議体)をはじめとする会議の場は、現在も事務局主導で会議を運営している地域が多く、会議を「住民主体」の形で運営できていないことに課題が感じられた。少しでも住民主体の会議運営の形に近づけていけるよう、会議のあり方や運営方法を検討していく必要がある。また、住民同士の話し合いの中から、地域の課題の解決策を導き出していけるような会議運営のスキルなども身に付けていきたい。

また、地域によっては、「(支えあいの)必要性をあまり感じていない」「行政やサービス事業所にお願いできると良い」など、住民主体で支えあいに取り組むことに対して温度差がある地域もある。しかしそういった地域では、住民同士の支えあいが日常生活の中で自然と行われていたり、元氣な高齢者が多いため、必要性を感じていない地域も多い。そういった地域にも、引き続きSCが関わりを持つことで、支えあいの必要性を理解していただき、住民自身が必要だと思えるような支えあいの取り組みをおこすきっかけをつくっていきたい。

3) 来年度に向けて

今年度把握された課題を踏まえ、来年度は以下の取り組みを行う。

- (1) 地域住民主体の活動の立ち上げ及び運営支援を強化する(「つくる」機能の強化)
- (2) 地域の課題解決を目的として、活動者同士をつなげる場づくり、専門職との連携を強化する(「つなぐ」機能の強化)
- (3) 各圏域及び小地域における地域課題を明確化し、第1層につなげる(「見つける・発掘する」機能)
- (4) SNS・広報紙等の各種媒体を活用し、本事業の周知を行う(「発信する」機能)

(1) 地域住民主体の活動の立ち上げ及び運営支援を強化する(「つくる」機能の強化)

引き続き、小地域における住民主体の支えあい活動の立ち上げ・運営を、地域の声やニーズに合わせて、SCが伴走型で支援する。

(2) 地域の課題解決を目的として、活動者同士をつなげる場づくり、専門職との連携を強化する(「つなぐ」機能の強化)

「地域支えあい会議」「地域見守りネットワーク会議」の開催等を通じて、活動者同士をつなげる取り組みを行う。「地域支えあい会議」に関しては、各圏域年2～3回開催(圏域の活動状況に合わせて設定)するが、会議を「住民主体」の形に近づけられるよう、協議体を住民主体にするプロセスや手法の取得を目指す。会議開催前に各圏域でコアメンバーとなる住民を集め、会議の方向性や運営方法の検討を行う。(「コアメンバー会議」の実施)

また、共通する課題を持つ地域や団体等が、地域・圏域を超えて交流することにより、地域支えあい活動の活性化を図ること、同じテーマで活動している団体同士のネットワークを構築することを目的とした、「テーマ別情報交換会」を実施する。

(3) 各圏域及び小地域における地域課題を明確化し、第1層につなげる(「見つける・発掘する」機能)

今年度 SC が活動をする中で把握された課題の分析を進める。また、地域住民が集まる場においても、住民自身が考える「課題」を明らかにし、分析を行う。分析された結果を、第1層協議体の会議の場へとつなげる。

(4) SNS・広報紙等の各種媒体を活用し、本事業の周知を行う(「発信する」機能)

引き続き各種媒体を活用し、事業の周知を行い、支えあいに対する住民の理解を深めていく。

おわりに

地域福祉アドバイザー
田園調布学園大学 和 秀俊

現在の日本の社会保障制度は一人で一人を支えるという肩車型であるため支え手の負担が非常に大きくなっており、制度だけで対応することが困難になってきております。そこで、誰もが安心して安全に暮ることができる地域共生社会を実現するために、介護保険法や社会福祉法などの法制度を改正し、地域の基盤づくりとして生活支援体制整備事業が創設されました。今まで社会福祉協議会が地域住民と一緒に取り組んできた地域づくりが、日本の社会保障制度の重要な課題として位置づけられ、生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーター（以下、SC）は、地域の基盤づくりの専門職としての役割を期待されております。

令和４年度から地域福祉アドバイザーとして、主に生活支援体制整備事業のSCと一緒に、つくば市の地域福祉に取り組んで参りました。地域福祉とは、地域の福祉課題を地域で一緒に解決する仕組みであり、社会福祉協議会は重要な担い手です。各圏域のSCがつくば市７圏域の地域性や地域住民の特性、歴史、文化などの違いに戸惑いながらも、それぞれの地域に丁寧に寄り添い地域住民と共創している取り組みは、まさしく地域福祉そのものであると思います。本報告書にも図式化して掲載しておりますが、各圏域のSCがそれぞれの地域のニーズを丁寧に把握し、仕掛け、地域住民の協議する場をつくり、多職種・多機関と連携しながら地域住民と一緒に取り組むことで、住民主体の素晴らしい活動が数多く生み出されました。これは、各圏域のSCが専門性を発揮し、生活支援体制整備事業において期待される役割を十分に果たした成果だと思われます。

このように、SCは各圏域における住民主体の地域づくりにおいて不可欠な存在であります。本事業における様々な課題にも真摯に向き合い、地域住民に寄り添い続けているからこそ、いかにして住民主体の取り組みを進めることができるかについて日々模索しております。そこで、地域福祉アドバイザーとして、SCの抱えている課題や悩みに寄り添い、専門職としてのさらなるスキルアップや各圏域のSC全員でチームとして取り組むことができるように今年度一緒に歩んで参りました。この成果が、今後のつくば市の生活支援体制整備事業に生かされ、より一層住民主体の取り組みが充実することを期待しております。

１年間、地域福祉アドバイザーとしてSCと一緒につくば市の地域福祉に取り組ませて頂き、多くの成果とともに幾つかの課題も見えて参りました。今後も、SCに寄り添いながら、これらの課題と一緒に取り組んでいきたいと思っております。つくば市の地域共生社会の実現に向けて、引き続き、つくば市社会福祉協議会とともに生活支援体制整備事業およびSCのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ROLE

生活支援コーディネーターの役割

見つける・発掘する

- 人や取り組み・知恵や工夫など、地域に存在する様々な宝物を見つけ出します。
- 地域の皆さんがどんな困りごとを抱えているかを発掘します。

つなげる

- 人や情報、サービスや資源などを適切につなげ、地域の困りごとと解決を目指す。
- 「協議体」等の場を活用し、地域住民や専門職などと一緒に、「支えかけ」の地域づくりを推進するきくります。

つくる

- 「こんなことと一緒に住むのをみんなが考える」といって、実現するお手伝いをします。

発信する

- 地域で行われている活動の様子や活動に関わっている人の想いを、様々な形で発信します。

REQUEST

皆さんの声を聞かせてください

- 地域の中の困ったことや不安なこと。
- 地域の様々な活動や支援などの情報。
- 地域でやりたいこと、こんな活動があるといいなと思っていること。

など

コーディネーターが地域の皆さんと一緒に
支えあいの地域づくりを推進します

COORDINATOR

生活支援コーディネーター紹介



INFORMATION

【本部】大穂圏域・谷田部西圏域・筑波圏域

〒300-3257 つくば市筑穂1-10-4
☎ 029-879-5500 〓 029-879-5501

【中央支所】豊里圏域・桜圏域

〒300-2633 つくば市遠東639
☎ 029-847-0231 〓 029-847-0233

【南支所】谷田部東圏域・荊崎圏域

〒300-1273 つくば市下岩崎2068
☎ 029-876-4552 〓 029-876-2842

🌐 <http://www.tsukuba-swc.or.jp>

✉ tiki@tsukuba-swc.or.jp

📷 https://www.instagram.com/tsukuba_2sc/



みんなで取り組む 支えあいの 地域づくり

生活支援体制整備事業



いくつになっても
誰もが安心して住み慣れた
地域で暮らし続けられる
「支えあいの地域づくり」
を行うものです

地域にこんな活動が広がるとを
目指しています！

通いの場

地域の皆さんが気軽に集まり、体操や
趣味活動、お茶飲みなどで楽しむ居場
所をつくります。

話し合いの場（協議体）

支えあいの地域づくりについて、住民
や関係機関等と一緒に話し合う場をつ
くります。

見守り・声かけ

地域でさりげない見守り・声かけ活動が
広がることにより、困りごとに気づくこ
とができます。

生活支援活動

ごみ出し・庭木の水やりなど、ちよっと
した困りごとを住民同士で解決できる仕
組みをつくります。

各地で支えあい活動
が生まれています！



大曽根みんなの食堂（大穂圏域）

地域の誰でも利用できる食堂として、毎月1回大穂
交流センターにて開催されています。



ほのぼのクラブ（豊里圏域）

地域住民同士で助け合いの輪が広がっています。
まずはボランティア活動として立木の枝伐採作業をし
ました。



高須賀集いの広場（谷田部西圏域）

高須賀研修センターに移動スパーが来る日、
月1回お話ししたり、スポーツしたりする楽しい広場がで
きました。



春日の森NET（谷田部東圏域）

地域にある元店舗や古民家を活用して、住民がいつで
も集える場所を作る取り組みが進んでいます。



竹園ぷらっと（桜圏域）

世代を越えた交流、異文化交流などができる誰でも気
軽にぷらっと立ち寄れる場所をつくりました。



小田地区いきいき会議（筑波圏域）

小田地区（旧小田小学校区）では「地域見守り」と
「防災」をテーマに活動を進めています。



荃崎圏域版社会資源集

地域支えあい会議の話し合いから、荃崎圏域の地域
活動をまとめた冊子を作成しました。

社会福祉法人つくば市社会福祉協議会



茨城県つくば市筑穂1-10-4

TEL:029-879-5500/FAX:029-879-5501

MAIL:tiki@tsukuba-swc.or.jp

令和5年5月発行

